

# 烏帽子会会報

2015年秋号 Vol.59



Medical Simulation Olympic 2015 (略称：シムリンピック 2015) 総合第3位

- 大学首脳人事 3p
- 教授就任挨拶 5p
- 研究奨励賞論文抄録 8p
- 烏帽子会賞受賞の言葉 40p

福岡大学医学部同窓会

## 目 次

・大学首脳人事	3
・会長挨拶	高木 忠博 3
・平成 28 年医学部医学科入学試験の要点	4
・教授就任挨拶	
教授就任のご挨拶	植木 敏晴 5
・総会報告	
第 34 回烏帽子会総会報告	安成 英文 6
・研究奨励賞	
平成 27 年度研究奨励賞選考報告	廣瀬 伸一 8
平成 27 年度研究奨励賞受賞者名簿	9
・平成 27 年度授賞論文抄録	
骨格筋分化におけるヒト筋芽細胞の DNA メチル化解析 (論文)	宮田 康平 10
DPP-4 阻害薬リナグリプチンの新生内膜形成抑制作用の検討 (論文)	寺脇 悠一 10
EGFR T790M 変異を標的とした新規免疫療法の開発： EGFR T790M 変異由来の HLA-A*0201 拘束性 T 細胞抗原の同定 (論文)	山田 哲平 11
GM-CSF Treated F4/80 <sup>+</sup> BMCs Improve Murine Hind Limb Ischemia Similar to M-CSF Differentiated Macrophages (論文)	西中村 瞳 12
Impact of Cigarette Smoking Cessation on HDL Functionality： VN-SEESAW-HDL (論文)	高田 耕平 12
Warburg effect regulated by amphiregulin in the development of colorectal cancer. (論文)	南 星 旭 13
Downregulation of DYRK2 can be a predictor of recurrence in early stage breast cancer. (論文)	榎本 康子 13
肺癌における変異 KRAS 制御末梢分泌型 micro RNA の解析 (計画報告)	吉田 康浩 14
・平成 28 年度研究奨励賞募集要項	14
・在外研修報告	
短期留学 ダナ・ファーバー癌研究所	江夏 総太郎 15
・在外研修援助金募集要項／在外研修援助金受給者一覧	16
・平成 26 年度評議員会議事録	17
・学会開催報告	
第 10 回病院総合診療医学会総会報告	鍋島 茂樹 22
第 15 回日本抗加齢医学会総会 御礼と報告	大慈 弥裕 之 23
第 35 回九州腎臓移植研究会の開催報告	中村 信之 24
福岡大学－啓明大学 BSL 交換プログラム 10 周年記念国際シンポジウム開催報告	朔 啓二郎 25
第 118 回日本循環器学会九州地方会 H27.6.27 日 (土) 開催報告	浦田 秀則 26
日本泌尿器科学会福岡地方会 296 回例会開催のご報告	入江 慎一郎 27
第 18 回日本 IVF 学会報告	詠田 由美 28
第 16 回乳癌最新情報カンファレンス	渡邊 良二 29
・会員寄稿	
JOS Best Paper Award を頂いて…	橋内 智尚 30
「日本～海外、医学生～研修医交流会」と、新レディコン改め「Doctors' Style」	正木 稔子 32
・学生対策報告	
平成 27 年度 烏帽子会主催 福岡大学医学部 M4 年生激励会を終えて	竹下 盛重 36
M4 激励会	吉村 郁弘 37
新入生歓迎会	岩崎 昭憲 38
・計報	
木船先生、さようなら。	林 英之 39
・キャンパスだより	
烏帽子会賞受賞者名簿	40
シムリンピック体験談	藤野 貴久 40
烏帽子会賞を受賞して	中山 敦貴 41
丸山結果報告	添田 李子 42
烏帽子会賞褒賞基準	43
・医学部同窓会諸表／医局長・医長名簿	44～46
・教育職員人事／事務局からのご連絡／編集後記	47

大学首脳人事

## 大学首脳人事

(関係分抜粋・就任はいずれも12月1日)

学 長	山 口 政 俊 (薬学部)
副学長	黒 瀬 秀 樹 (理学部／教学担当)
	中 川 誠 士 (商学部／財政担当)
	西 嶋 喜代人 (工学部／研究・情報担当)
	大慈弥 裕 之 (医学部・形成外科学／医療担当)
医学部長	朔 啓二郎 (心臓・血管内科学)
福岡大学病院長	井 上 亨 (脳神経外科学)
福岡大学筑紫病院長	向 野 利 寛 (眼科)

会長挨拶

## 三 慶 事

烏帽子会 会長 高 木 忠 博 (1回生 脳神経外科クリニック高木 院長)



今回は、皆さんへ大変喜ばしい慶事を報告出来る事を嬉しく思います。

最初は、朔医学部長の再任が決まりました。国試対策も引き続き継承されて何とか100人で100%を実現して貰いたいと思います。そして、福大医学部での同窓会と大学とのシッカリとした協力支援関係システムを作り上げたいと思います。母校の応援団として問題を一つ一つ根気強く解決して前へ行くしか大学は進歩して行かないと思います。その仕事の責任者が学部長と思いますので頑張ってもらいたいと思います。

それから、今年福大大学長選挙が行われました。副学長は、学長の専任により決定されますが、初めて同窓生の大慈弥 裕之君(3回生)が副学長に選考されました。今まで医療担当副学長は医学部から専任されてきましたが卒業生が着任するのは最初となります。これも大変な慶事だと思います。福大全学部の中で特殊で重要な学部の担当副学長ですので医学部への深い理解を福大全体の中で醸造して貰い新病院再建の必要性を医学部長と協力して他学部の人達へ説明して啓蒙して貰いたいと思います。

それから、新しい教授誕生の慶事です。植木敏晴君(8回生)が筑紫病院消化器内科の教授に選任されました。筑紫病院消化器内科は、消化器の雄であった八尾先生が創設された内科ですが、その伝統を引き継ぎ卒業生の植木君が教授就任します。筑紫病院も新病院になり地域の中心病院に為って医学部の中でも医学教育の一翼を担う重要な医療機関に為って進歩していると思います。これからの活躍を期待したいと思います。

歩みを止めずに着実に皆が其々が自分の出来る力を発揮して母校の発展に貢献していきましょう。

### 平成 28 年 医学部医学科入学試験の要点

	A方式推薦 (H27.3月卒業者 H28.3月卒業見込者)	※地域枠推薦	大学入試センター試験 利用入試	一般入試系統別 一次選考	センター試験利用入試二次選考 一般入試系統別二次選考
出願期間	平成27年11月2日(月) ～11月10日(火)	平成27年11月2日(月) ～11月10日(火)	平成28年1月5日(火) ～15日(金)	平成28年1月5日(火) ～19日(火)	
試験日	平成27年11月29日(日)	平成27年11月29日(日)	大学入試センター試験 平成28年1月16日(土)・17日(日)	平成28年2月2日(火)	平成28年2月14日(日)
試験科目	外国語、数学、面接 調査書	外国語、数学、面接 調査書	外国語、国語、数学、 理科(2科目)	外国語、数学、理科 (2科目)、小論文	面接、調査書
募集人員	20人	10人	10人	70人	
合格発表	平成27年12月8日(火)	平成27年12月8日(火)	一次合格： 平成28年2月6日(土)	平成28年2月6日(土)	平成28年2月23日(火)
<p><b>福大医学部医学科を受験されるお子様のお名前をお教え下さい。</b></p> <p>烏帽子会では毎年、福大医学部を受験される同窓生のお子様のお名前をお尋ねしております。大学によっては同窓生子女の合格者数が入学定員の半数に迫る大学もあるようですが、本学ではまだ10数名、入学定員の10%台に過ぎません。つきましては、色々の参考にしたいと考えていますので、お差し支えなければ受験されるお子様のお名前を下記あてお知らせください。</p> <p>TEL：092-865-6353 FAX：092-865-9484 E-mail：eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp 〒814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会</p>					<p><b>追加合格</b> 平成28年2月23日(火)の二次合格発表と同時に、追加合格予定者に追加合格予定順位が通知されます。その中から3月31日までに追加合格者を決定し、本人に通知されます。</p>

※地域枠推薦該当者

- ①九州（沖縄を含む）・山口各県内に所在する高等学校または中等教育学校の出身者
- ②出願時において、本人または保護者（親など）が九州（沖縄を含む）・山口各県内に居住する者
- ③高等学校または中等教育学校を平成26年3月以降に卒業した者および平成28年3月卒業見込の者
- ④高等学校または中等教育学校を平成23年3月以降に卒業した者で、大学、短期大学（高等専門学校を含む）、大学校、専修学校の専門課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る）に在学中の者および平成26年3月以降に卒業した者



一人でいるのが楽だ。  
人間関係がめんどくさい。  
と思っている貴男へ、朗報です。  
同窓会が君の楽しい出会いを約束します。  
すぐに同封の用紙に必要事項を書いて  
同窓会事務局まで送ってください。  
すてきな未来が待っています。

文責 縁むすび担当理事 田野茂樹 (6回生)



## 教授就任挨拶

## 教授就任のご挨拶

福岡大学筑紫病院 消化器内科 教授・診療部長 植木 敏 晴 (8回生)



植木敏晴(うえき としはる)  
教授・診療部長 略歴

- S60. 3 福岡大学医学部卒業
- S60. 6 福岡大学病院研修医  
(第一内科) 入局
- S62. 6 福岡大学病院医員  
(救急部)
- S63. 6 福岡大学病院医員  
(第一内科)
- H 1.6 福岡市医師会成人病センター  
医師 (内科)
- H 2.12 福岡大学病院医員  
(第一内科)
- H 4.12 福岡大学筑紫病院消化器科  
(現・消化器内科) 入局
- H14. 4 福岡大学筑紫病院助手  
(内視鏡部)
- H19. 4 福岡大学筑紫病院講師  
(内視鏡部)
- H21. 4 福岡大学筑紫病院講師  
(消化器科)
- H21.10 福岡大学筑紫病院准教授  
(消化器内科)
- H27. 4 福岡大学筑紫病院准教授・  
診療部長  
(消化器内科)
- H27.10 福岡大学筑紫病院教授・  
診療部長  
(消化器内科)

平成27年10月1日付で松井敏幸教授の後任として3代目の福岡大学筑紫病院消化器内科教授・診療部長を拝命致しました。消化器内科は初代の八尾恒良教授によって創設され、その理念は松井教授に受け継がれながら、教室員は臨床・研究・教育に携わっています。私は昭和60年に福岡大学医学部を卒業し、福岡大学第一内科(奥村 恂教授)を経て、平成4年から福岡大学筑紫病院消化器内科(八尾恒良教授)に入局し、八尾教授、松井教授の下で、一貫して筑紫病院で診療・研究・教育に努めて来ました。専門領域は肝臓胆道膵臓(肝胆膵)で、坂口正剛先生の下で超音波検査関連手技を、学内連携で福岡大学第一外科池田靖洋教授の下で内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査関連手技を学び、主に画像診断と超音波・内視鏡下治療を行っています。地域医療に貢献するために筑紫医師会が主催する筑紫消化器懇話会、筑紫肝胆膵懇話会などを通じて肝胆膵疾患に対する最新の知見、検査法や治療法を紹介し、地域医療支援病院として24時間体制で近隣の開業医や市中病院の先生方のご要望に応える体制を整えています。救急疾患である総胆管結石性胆管炎は、ほとんどの症例で内視鏡的乳頭切開術後や経皮経肝胆道鏡下に截石することで、開腹することなく低侵襲的に治療を完結しています。また筑紫病院は「地域がん診療病院」の新規申請を行っています。化学療法室室長として肝胆膵がんの診療に深く携わってきましたが、今後も緩和医療を含めて地域の先生方と一緒にがん診療に取り組んでいきます。

消化器内科の一日の平均入院患者数は約70人で、消化管研究室と肝胆膵研究室で半数ずつを占めています。両研究室とも他の診療科、看護部、薬剤部や栄養部などと連携し、支持療法を含めて集学的治療を行うことで、人にやさしい医療を心がけています。全ての消化器疾患をカバーできる総合消化器内科ですが、今まで通り、両研究室が緊密に連携し、消化器内科をバランス良く、さらに発展させ、魅力ある教室にしていきます。

筑紫病院は地域医療に貢献できる優秀な臨床医や福岡大学を担う若手医師を育てることが使命と考えています。私のモットーは、多子相伝です。今後も一人でも多くの消化器内科のエキスパートを育成するとともに、総合内科専門医として救急疾患や慢性疾患に対応できる人材を育てていきます。

最後に、患者さんが安心と信頼を持って受診し、検査や治療ができるように、筑紫病院のスローガンである、心の通う医療、あたたかい医療を実践していきます。今後とも何卒よろしくご挨拶申し上げます。

総会報告

## 第34回烏帽子会総会報告

第34回烏帽子会総会幹事学年世話人代表 安成英文 (18回生 総会担当理事)

滞り無く議事進行した総会に引き続き、テキサス在住の本村禎氏 (18回生米国 Evaheart, Inc. 代表取締役社長 / 株式会社 EVI ジャパン (福島) 代表取締役社長) に講演していただきました。

福岡大学心臓血管外科には学生時代から続けている博多山笠にも参加させてくれなどわがまま言いながら入局、臨床経験積みながら、もう一つの無理の2.3年の留学のつもりが、年月を重ね留学先上司の医学誌歴史博物館立ち上げなどを経て、各ラボ間の研究費の熾烈なしのぎの削り合いの中まさかの失業。ボランティアから再起し、メソジスト病院で居場所を確保し、巡り合いで人工心臓の会社の舵取りを任せられ、現在は福島に研究所と研修施設を拠点に置き、日米そして欧州を飛び回る生活をしているそうです。持ち前の楽観的世界観の軽快な語り口で、今まで出会ったすべての人や出来事に感謝を散りばめた素晴らしい講演でした。いやーほんと本村に頼んでよかったです。

懇親会も大盛況で例年より30分ほど長めの懇親

会でした。それも、18回生重川誠二氏による講演第2幕 「しげちゃんの日本縦断食べ歩き しげログ」披露していただきました。

学生時代からの食通で知られる重川さんが福岡大学脳神経外科医局 ホームページでのグルメレポートを皮切りに、脳外科雑誌の連載を続けている事実。1枚の写真でここまで語れるか?と熱く深い曼茶羅観の数々。寿司ネタとシャリを男女の関係に例えるなどもはやアートでありました。がやがやの中でやりにくそうでしたけどみんな楽しんでましたよ、重さん!

結果125名の参加をいただき盛会に終わることが出来ました。

53人の幹事学年関連者は、一部朝まで飲み明かし、結局「大・学年コンパ」でしたが、これも担当学年に自由に企画させていただきました高木会長はじめ各理事の皆さまの寛容なお心遣いの賜物と思っています。この場をお借りしてお礼申し上げます。

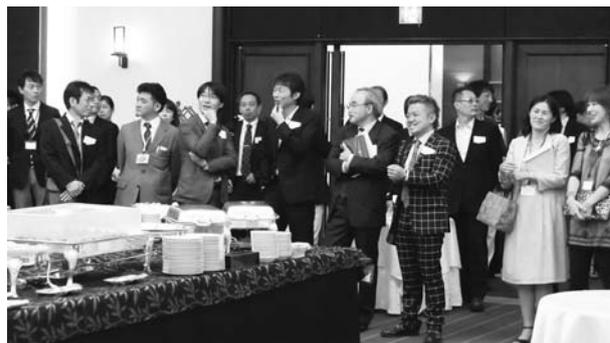
今年で打ち上げがらずに来年も楽しみに参加しようと思っています。



幹事の18回生の先生方 / 平成27年7月4日 於ソラリア西鉄ホテル



講演中の本村 禎先生 (18 回生)



懇親会



乾杯 8 回生の岩隈昭夫先生



懇親会司会



ゲストの特別会員の先生方 (左: 安永晋一郎生化学教授 / 右: 岩崎 宏 福大名誉教授)



しげログ講演中の重川誠二先生 (18 回生)



懇親会風景



恒例の輪になって校歌斉唱



19 回生佐々木隆光先生へ幹事引継ぎ



万歳三唱 8 回生 植木敏晴教授

研究奨励賞

# 平成27年度 研究奨励賞選考報告

選考委員長 廣 瀬 伸 一 (3 回生)

今回は応募者全員が等しく賞を受賞することになった。このようなことは初めてであるが、決して選考がおろそかであった訳ではない。応募のいずれもが、甲乙つけがたかったことによる。併せて今回の第19回目の選考会で示された、今後の本賞の選考方針について述べたい。

私が選考委員長を拝命し二回目にあたる選考会となった。従来より選考各員にはあらかじめ、応募内容の論文をお渡しし、各応募に点数をつけて頂くようになっている。選考会は、採点の集計が発表する前に、選考委員に各自の配点に至った理由をお聞きし、選考方針など自由な意見を述べてもらうスタイルをとっている。例年であると、選考委員の意見が出されるうちに、次第に受賞者が自ずと絞られてくる。ところが、今年は選考委員の意見が出れば出るほど、その意見が分散していることが明らかになってきた。各委員の意見はすべて尤であり、それはとりも直さず各応募が等しく素晴らしいことを物語っていた。一方で、このようなことは前代未聞で、選考委員長として、成り行きが混沌となる事に不安を覚えた。意見が出そろったところで、点数の集計が開示された。果たして、その点数もまさに甲乙つけがたく、各委員の意見の多様性を反映していた。結局、全員へ等しく授章という、私の提案に選考委員一致の賛成をいただいた。おそらく、選考委員全員が私と同じ思いで、選考会の成り

行きを見守っていたのであろう。

今回で私は選考委員長を辞するが、今回までの本選考会で醸成された今後の本賞の選考の基本方針を述べておきたい。福岡大学医学部は創立43周年を迎え、その医療や研究実績も国内外に誇れるものとなった。その結果、毎年多数の素晴らしい応募が出揃うようになった。一方で福岡大学医学部同窓会が授与する唯一の本賞は、同窓会員若手個人の育成ばかりでなく、福岡大学医学部のそのものの発展に寄与するものであることを銘記しなくてはならない。すなわち、本賞の選考は、単に論文掲載の雑誌のインパクトスコアを云々する時代は過ぎ、若手の研究者の真の努力とともに、彼らの福岡大学医学部への貢献度に基づくものではないと思われる。具体的には、今後は福岡大学で実施された、あるいは福岡大学が主体となり実施された研究を優先して顕彰しようとするものである。無論、福岡大学医学部同窓会員である限り、申請者の出身大学は全く無関係である。今回の審査委員の自由意見も福岡大学発の研究を大切にすべきと言う意見が多数を占めた。

同窓会員の一人として、また福岡大学発の研究にこだわり四半世紀の研究生活を送った者として、この今後の選考方針に強く賛同したい。今後も優れた福岡大学オリジナルの研究が研究奨励賞に多数応募されることを期待する。



総会風景



研究奨励賞 AWARD

● 平成 27 年度 研究奨励賞受賞者名簿 ●

福岡大学医学部 産婦人科学 福大助教 宮田 康平 (正会員/29 回生)	骨格筋分化におけるヒト筋芽細胞の DNA メチル 化解析 (論文) / 優秀賞
福岡大学医学部 内分泌・糖尿病内科学 福大大学院生 寺脇 悠一 (正会員/31 回生)	DPP-4 阻害薬リナグリプチンの新生内膜形成抑 制作用の検討 (論文) / 優秀賞
福岡大学医学部外科学講座 消化器外科 福大助教 山田 哲平 (正会員/27 回生)	EGFR T790M 変異を標的とした新規免疫療法の 開発: EGFR T790M 変異由来の HLA-A*0201 拘束性 T 細胞抗原の同定 (論文) / 優秀賞
福岡大学医学部 薬理学 福大助教 西中村 瞳 (準会員)	GM-CSF Treated F4/80 <sup>+</sup> BMCs Improve Murine Hind Limb Ischemia Similar to M-CSF Differentiated Macrophages (論文) / 優秀賞
福岡大学医学部 心臓・血管内科学 福大助教 高田 耕平 (準会員)	HDL functionality における禁煙のインパクト: VN-SEESAW-HDL (論文) / 優秀賞
福岡大学医学部 産婦人科学 福大助手 南 星旭 (正会員/28 回生)	Warburg effect regulated by amphiregulin in the development of colorectal cancer (論文) / 優秀賞
福岡大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学 福大講師 榎本 康子 (正会員/27 回生)	Downregulation of DYRK2 can be a predictor of recurrence in early stage breast cancer (論文) / 優秀賞



(左より) 榎本康子先生、南 星旭先生、高田耕平先生、西中村 瞳先生、廣瀬伸一教授、山田哲平先生、  
寺脇悠一先生、宮田康平先生

平成 27 年度授賞論文抄録

## 骨格筋分化におけるヒト筋芽細胞の DNA メチル化解析 (論文)

福岡大学医学部 産婦人科学 助教 宮 田 康 平 (29 回生)



### 題

DNA methylation analysis of human myoblasts during in vitro myogenic differentiation: de novo methylation of promoters of muscle-related genes and its involvement in transcriptional down-regulation. (Human Molecular Genetics. 2015, 24(2):410-423.)

### 本文

近年個体発生や発達において単一受精卵から異なる特徴を持った細胞・組織へと分化する過程では DNA のメチル化修飾が、長期エピゲノム記憶において中心的な役割をもつと考えられていますが、どのような場所に、どのようなタイミングで、どのような分子機序起きているのか、その多くは明らかではありません。我々は、ヒト筋芽細胞の分化における DNA メチル化部位を網羅的かつ段階的に解析しました。骨格筋分化においては DNA メチル化獲得がゲノム全体に起こっており、さらに分化の継時的変化に沿って DNA メチル化を段階的に獲得していました。新たに DNA メチル化を獲得した遺伝子座について解析を行うと、DNA メ

チル化獲得が起こっている領域の近傍には骨格筋分化・発達に関連する遺伝子が多いことが同定されました。分化の段階と筋関連遺伝子座の DNA メチル化獲得の相関は特に転写開始点近傍で顕著であり、この変化は遺伝子発現とも相関していました。また、DNA メチル化変化が起こった領域の配列の特徴を解析したところ、骨格筋分化において重要な転写因子である ID ファミリーの結合配列や Rp58 の結合配列が挙げられました。この結果から、DNA のメチル化獲得は骨格筋分化において重要な役割を行っている遺伝子に有意に起こることが証明され、分化過程において必要な遺伝子の発現を抑制する機構に DNA メチル化獲得が関わっていることが示唆されました。

## DPP-4 阻害薬リナグリプチンの新生内膜形成抑制作用の検討 (論文)

福岡大学医学部 内分泌・糖尿病内科学 大学院生 寺 脇 悠 一 (31 回生)



血糖コントロールの目標は血管合併症の発症進展を抑制し、患者の生活の質や寿命を護る事にある。したがって、抗糖尿病薬の血管保護作用の検討は重要な課題といえる。DPP-4 阻害薬リナグリプチンの血管保護作用を新生内膜形成抑制に着目し検討した。非糖尿病マウスにリナグリプチン 3mg/kg/day を経口投与すると、血管傷害術後 4 週間目での新生内膜形成は対照群に比べ有意に抑制されていた。またこのとき、酸化ストレスマーカーである尿中 8OHdG はリナグリプチンによって約 4 分の

1 に抑制され、血中活性型 GLP-1 濃度は約 1.5 倍に上昇していた。マウスの血糖や体重には差がないことから、リナグリプチンの血糖降下作用と独立した血管保護作用と考えられる。また、in vitro の検討においても、リナグリプチンは血管平滑筋細胞増殖を有意に抑制したことから、血管平滑筋細胞に直接的に作用し細胞増殖を抑制している事も考えられた。リナグリプチンが血糖降下作用を超えて、活性型 GLP-1 濃度の上昇、抗酸化作用、直接的な細胞増殖抑制作用といった多面的作用を介して血管平滑筋細胞増殖を抑制し、血管保護作用を惹起する可能性が示唆された。

# EGFR T790M 変異を標的とした新規免疫療法の開発： EGFR T790M 変異由来の HLA-A\*0201 拘束性 T 細胞抗原の同定(論文)

福岡大学医学部外科学講座 消化器外科 助教 山田 哲平 (27 回生)



## 【受賞論文】

EGFR T790M Mutation as a Possible Target for Immunotherapy; Identification of HLA-A\*0201-Restricted T Cell Epitopes Derived from the EGFR T790M Mutation  
PLoS One 2013; 8(11): e78389

この度、福岡大学医学部同窓会より平成 27 年度研究奨励賞を頂きましたのでご報告させていただきます。同研究内容はがん免疫療法の中のがんワクチン療法における新規ワクチン抗原開発に関する研究でありまして、下記に簡単にご紹介させていただきます。

昨今、腫瘍関連抗原の同定により免疫療法の分野でもがん治療の劇的な進歩を認め、腫瘍関連抗原を使用したがんワクチンを含め多数のがん免疫療法の臨床試験が行われております。しかし、それらのほとんどが野生型の自己抗原を用いたがんワクチンであり、免疫寛容により免疫原性が低く、免疫逃避が起こりやすいなどの理由から有効性を示せていないのが現状であります。ところが、変異遺伝子由来の抗原は免疫系からは非自己と認識されるため免疫原性が高く、免疫逃避が起こりにくいため、変異遺伝子由来の抗原ペプチドは免疫治療の格好の標的となりうると考えられております。現在、最も悪性度が高く予後の悪い悪性腫瘍の 1 つであります肺癌において、特にゲフィチニブ (イレッサ) やエルロチニブ (タルセバ) のような EGFR チロシンキナーゼ阻害薬に対する耐性を持つ患者には現在のところ有効な治療オプションがない実状がございますので、EGFR 遺伝子のゲフィチニブ耐性点突然変異 T790M を標的とした新規ワクチン抗原の開発を行いました。

結果、本研究により世界で初めて EGFR T790M 変異由来の MHC class I 拘束性 T 細胞抗原を 2 種

(LIMQLMPFGCL) 同定することができ (特許広告番号: WO2014024965 A1)、同抗原は EGFR チロシンキナーゼ阻害薬耐性変異 T790M を有する非小細胞肺癌患者に対する免疫治療の抗原ペプチド (ワクチン抗原) として使用可能で、特に、EGFR チロシンキナーゼ阻害薬治療中の非小細胞肺癌患者において、薬剤耐性誘導を予防するための抗原ペプチド (ワクチン抗原) として期待されると結論づけることができました。現在、トランスレーショナルリサーチとして神奈川県立がんセンターを中心に臨床試験を計画中であります。

近年、がん免疫療法において抗 CTLA-4 抗体や抗 PD1/PD-L1 抗体、などの Immune checkpoints 阻害剤に関して世界中の注目が集まっております。同薬剤の併用薬の 1 つとして免疫原性の高いワクチン抗原が注目されておりますので、今回同定された 2 種の抗原ペプチドは Immune checkpoints 阻害剤との併用薬としても期待できるものと考えております。

以上、簡単ではございますが平成 27 年度研究奨励賞受賞のご報告とさせていただきます。今回このような栄誉ある賞を頂きまして誠に感謝致しております。同窓会のご支援は我々後輩どもにとりまして大きな大きな支えとなっております。引き続き、手術を中心としたがんの集学的治療に加え、がん免疫に関する基礎研究を継続して頑張りたいと考えておりますので今後ともご支援の程何卒よろしくお願い致します。

## GM-CSF Treated F4/80<sup>+</sup> BMCs Improve Murine Hind Limb Ischemia Similar to M-CSF Differentiated Macrophages (論文)

福岡大学医学部 薬理学講座 助教 西中村 瞳 (準会員)



本研究では重症下肢虚血の細胞治療を目指すため、骨髄由来の M-CSF 培養細胞集団に加え、GM-CSF 培養細胞集団をマウス虚血肢モデルに投与し、これらの細胞治療における血管・リンパ管新生効果および血流改善効果について検討を行った。GM-CSF または M-CSF 存在下で培養した細胞の性質を FACS にて調べた結果、CD11b 陽性であり、F4/80 陽性マクロファージが多く含まれていた。これらの細胞  $1 \times 10^5$  個をマウス虚血肢に投与後、レーザードッ

ラーによる血流改善効果を経時的に確認した。GM-CSF 培養細胞も M-CSF 培養細胞の効果と同等で、コントロール群に比べて有意に血流改善効果があり、血管・リンパ管新生が認められた。これらの細胞集団の中のマクロファージに着目した結果、虚血肢の血流改善効果を認め、マクロファージが重要な働きを担うことが示唆された。特に GM-CSF 培養マクロファージ投与群では術後 7 日目の術肢組織中に Foxp3 陽性細胞 (制御性 T 細胞) がコントロールに比べて多く集積していることが分かった。虚血肢の細胞治療におけるマクロファージや制御性 T 細胞が果たす役割についてさらなる検討を進めたい。

## Impact of Cigarette Smoking Cessation on HDL Functionality: VN-SEESAW-HDL (日本語訳:HDL functionality における禁煙のインパクト: VN-SEESAW-HDL) (論文)

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 助教 高 田 耕 平 (準会員)



**背景:** 高比重リポ蛋白 (HDL) 機能と禁煙の関連は不明である。  
**目的:** 禁煙による HDL 機能への影響を検討した。  
**方法:** 32 名を登録し、禁煙補助薬による禁煙介入を行った。主な評価項目は脂質プロファイル、ApoA-I、HDL 亜分画、マロンジアルデヒド (MDA)、PAF-AH、HDL 機能 (コレステロール引抜き能および、HDL の抗酸化能を示す HDL inflammatory index (HII)) とした。  
**結果:** 禁煙成功群で禁煙前後の apoA-I、HDL-C、

PAF-AH および HDL 亜分画には有意な変化を認めなかったが、HDL 機能はいずれも有意に改善していた。また禁煙成功群で HDL 中の MDA の有意な減少を認め、不成功群と比較し、有意に HDL 機能 (いずれも) が改善していた。禁煙前後での変化量に関しては、コレステロール引抜き能は呼気中 CO 濃度と、HII は HDL 中の MDA と有意な相関関係を認めた。  
**結語:** 禁煙により apoA-I 値、HDL-C 値や HDL 亜分画とは関係なく、HDL 機能の改善がもたらされることが明らかとなった。禁煙に伴う HDL 機能の改善は、禁煙による冠動脈疾患罹患リスク軽減に関与している可能性がある。

## Warburg effect regulated by amphiregulin in the development of colorectal cancer (論文)

福岡大学医学部 産婦人科学 助手 南 星 旭 (28 回生)



(目的) 今までに我々は、大腸癌では上皮系増殖因子の Amphiregulin (AREG) が標的分子となりうることを示してきた。そこで、AREG 発現の分子機構の解明を網羅的スクリーニングにて行った。

(方法) 2 種類の大腸癌細胞株で発現マイクロアレイ解析およびパスウェイ解析を行った。また、AREG の転写制御エレメントの同定および転写因子を同定し、糖代謝と AREG の関連性を解析した。

(結果) 発現マイクロアレイ解析にて、共通して発現変化を示した遺伝子群の pathway 解析を行うと、糖

代謝と関連する glycolysis が抽出された。次に、AREG の転写制御エレメントに結合する転写因子として、糖代謝に関わる転写因子の MLX を認めた。ChIP assay およびルシフェラーゼレポーターアッセイにて、MLX が AREG の発現制御を行っていることを示した。癌細胞は好気条件下であっても解糖系が亢進する Warburg 効果を示す。今回、培養液中の glucose 濃度依存性に AREG の発現が亢進することを認めた。次に、siRNA 法により AREG の発現を抑制し、実験的に Warburg 効果を確認すると、細胞内への glucose の取り込みおよび細胞外への lactate の産生が抑制され、大腸癌細胞株においては AREG が Warburg 効果に関与することが示された。

## Downregulation of DYRK2 can be a predictor of recurrence in early stage breast cancer (論文)

福岡大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学 講師 榎 本 康 子 (27 回生)



DYRK2 は早期乳癌症例における再発予測因子である。

DYRK2 (dual-specificity tyrosine-(Y)-phosphorylation-regulated kinase) は、癌抑制遺伝子である p53 によるアポトーシス誘導に関するチロシンおよびセリンスレオニンキナーゼの 1 種である。DYRK2 の発現が早期乳癌の予後予測因子になる可能性を検証した。

### 対象・方法

2000 年 1 月～2009 年 12 月に当院で手術を施行した原発性乳癌のうち、ステージ 1～2B 期の 274 症例を対象とした。抗 DYRK2 抗体による免疫組織染色にて DYRK2 発現を評価し、臨床病理学的因子や予後との相関を解析した。

### 結果

腫瘍径、組織グレード、ホルモンレセプター、HER2、Ki-67 などの臨床病理学的因子と DYRK2 発現との相関は認めず、リンパ節転移と DYRK2 発現に有意な相関を認めた ( $p=0.04$ )。10 年無再発生存率は低発現 87.3%、高発現 95.9% で有意差を認め、低発現例は高発現例に比べて、再発しやすい傾向を認めた。 ( $p=0.05$ )

### 結語

リンパ節転移陰性症例の無再発生存期間について検討した結果、DYRK2 低発現例では再発率が高く、無再発生存期間も短かった。これらの結果より、DYRK2 はリンパ節転移陰性の早期乳癌患者において新たな再発の予測因子となり得る可能性が示唆された。

# 肺癌における変異 KRAS 制御抹消分泌型 micro RNA の解析 (計画報告)

福岡大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学 講師 吉田 康 浩 (24 回生)

本研究では、肺癌患者で、KRAS が制御する末梢分泌型 miRNA を、患者血清よりエクソソームを抽出・解析し、肺癌の有用なバイオマーカーを探索することを目的として計画を立てた。

術前の血清、病変部とリンパ節切除が行われた 110 症例の肺癌切除患者を対象とした。病理標本を用いて、Scorpion-ARMS 法で腫瘍に KRAS 変異が見られるかを解析し、110 例中 7 例 (6.3%) に KRAS 変異がみられた。KRAS 変異がある症例とない症例の病理学的特性を比較し、KRAS 変異がある症例は全例腺癌、リンパ節転移はみられなかった。7 例中 5 例が 3cm 以下の腫瘍径であり、KRAS 変異がなく、3cm 以下でリンパ節転移陰性腺癌の症例と比較した。その結果、micropapillary pattern (MPP) が見られる症例が、KRAS 変異陽性症例で優位に多かったことが分かった。

MPP 症例は、腫瘍細胞間の接着が弱く、転移が多いという報告があり、KRAS の変異が MPP の発現に関与しているなら、新しい発見であり、臨床的に大きな意味を持つ。先行実験として大腸癌細胞株で、浮遊培養下に分散傾向を見る実験を施行。その結果、細胞間接着抑制する 5% ETOH を加えると、活性

化 KRAS が存在する細胞塊が分散傾向にある事を証明し、変異 KRAS 陽性細胞塊は細胞間接着が弱い事を示した。この特性は、MPP と類似する特性であり、KRAS 変異有り無しの細胞を用いて、細胞塊の分散傾向を観察することで、基礎の方面から細胞接着に KRAS が関与しているかを解明する実験になりえる。現在、KRAS 変異がある肺癌細胞株から変異 KRAS を抑制した細胞を作製している段階である。

当初、患者血清を用いたエクソソームの解析を予定したが、KRAS 変異症例が少なかった事、KRAS 変異症例にリンパ節転移がなかった事より、KRAS 変異が有る無しの細胞の培養液中の miRNA を採取・解析する方向で方針変更を行っている。それと同時に、当初の予定通り、患者血清からエクソソームの抽出を行っており、今後、マイクロアレイや qPCR を用いて、網羅的に KRAS が関与する micro RNA の解析に進む予定としている。

日常臨床の中、なかなか基礎実験を行う時間がないのが現状ではありますが、細胞生物学の先生方のご協力もいただき、同窓会のご支援の期待に応えられるよう、精進していく所存です。今後ともよろしくお願いいたします。

平成 28 年度 福岡大学医学部同窓会

## 研究奨励賞募集要項

対 象：正会員及び準会員で、40 才未満の者または学部卒業後 10 年未満の者  
(本会会費完納を条件とする)

研究課題：医学に関するものであれば自由 (医学に関する研究計画又は研究論文)

申請方法：所定の申請書による (所定欄に支部長推薦を要す)

提出先：〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局  
TEL 092-865-6353 (直通) 代表 092-801-1011 内線 3032 Fax 092-865-9484

締 切：平成 28 年 5 月 2 日 (月)

賞状・賞金：奨励賞 (優秀論文賞を含む) 5 件以内

発表及び表彰：平成 28 年 7 月 2 日 (土)、第 35 回同窓会総会席上 必ず出席すること

そ の 他：①論文受賞者は抄録を提出すること

計画受賞者は 1 年後研究成果報告書を提出すること

②申請書は同窓会事務局に請求又は同窓会ホームページからダウンロードのこと

③申請書はワープロで記載し、過去の研究業績 (原著、著書、症例報告、学会発表)、研究の独創性・重要性を十分に書くこと

※準会員の方もお応募ください。

## 在外研修報告

## 短期留学 ダナ・ファーバー癌研究所

江夏 総太郎 (20 回生)

福岡大学医学部同窓会よりご支援いただき、2007年4月から同年9月までの6ヶ月、米国マサチューセッツ州ボストンのLongwood Medical and Academic Areaと呼ばれる地域の一面にあるハーバード大学医学部の主要関連医療機関の一つであるダナ・ファーバー癌研究所(Dana-Farber Cancer Institute)に研究留学させていただきましたので報告させていただきます。

ダナ・ファーバー癌研究所は一年に約30万人の成人癌または小児癌の外来患者が訪れ、特にそのうちの700人以上が臨床試験に参加する患者である米国でも名だたる癌拠点病院であります。研究施設も充実しており、小生は多発骨髄腫を対象とした基礎研究を展開されていた大先輩の秀島輝先生のチームで学ぶ機会を得ました。

また、半年という限られた時間のなかでもあり先輩の研究員で東京慈恵会医大から留学中の大川豊先生のチーム員として研究に携わらせていただきました。

そこで初めて当時、癌研究において注目を浴びていたタンパク質の1つである“熱ショックタンパク質”(Heat Shock Protein、HSP)に出会いました。熱ショックタンパク質とは、細胞が熱等のストレス条件下にさらされた際に発現が上昇して細胞を保護するタンパク質の一群であり、分子シャペロンとして機能します。ストレスタンパク質(Stress Protein)とも呼ばれ、ストレス下での細胞が生き延びるために重要な役割を担っているとされています。このタンパク質は、細胞タンパク質の折りたたまれた状態を維持し、条件が悪くなると活性化されます。また細胞の通常の生活においても重要な役割を果たしており、未成熟なタンパク質の折りたたみを助け危険な凝集を抑制していることがわかっています。Hspはその分子量によって性質が異なることからHspの後におおよその分子量を示す数値を付けて表記されます。そのためHsp70、Hsp60など複数のHspの種類が存在しますが、癌研究において重要なのはHsp90で、このHspは他のHspと比して特殊な役割を担っています。Hsp90は厳選されたタンパク質だけを対象に成

熟を助ける専門のシャペロンで、対象とするタンパク質には、ステロイド受容体(steroid receptor)、変異体p53(mutant p53)タンパク質、乳がんに関係するHER2タンパク質など百種類以上の転写因子やリン酸化酵素(キナーゼ)が含まれるといわれています。Hsp90によって助けられるタンパク質の多くは細胞成長に関わっているため、がん研究におけるターゲットタンパク質として魅力的な対象であります。特に、がん細胞は通常の細胞よりもHsp90への依存度が高いので、Hsp90の機能を妨げる薬により強く反応します。例えば、Hsp90阻害剤がATPがHsp90に結合するのを妨げれば、その結果Hsp90と誤って折りたたまれたタンパク質の複合体が蓄積される。そしてユビキチン/プロテオソーム機構(ubiquitin/proteasome system)が刺激されてタンパク質複合体が破壊され、最終的には成長を制御している信号伝達経路が破壊されてがん細胞は死滅することになります。研究所ではこのHsp90阻害剤であるSNX-2112を用いての研究を大川先生と共に展開しました。結果、SNX-112はAktやERKの活性、IL-6、Insulin-like growth factor-1、骨髄幹細胞を抑制することがわかり、結果として骨髄腫細胞の増殖を阻害することが解明されました。骨髄腫細胞を有するxenograftでの生存の延長も確認することができ新薬として治験への導入と成功が期待されるデータが得られました。詳細は原著論文(SNX-2112, a selective Hsp90 inhibitor, potently inhibits tumor cell growth, angiogenesis, and osteoclastogenesis in multiple myeloma and other hematologic tumors by abrogating signaling via Akt and ERK, Blood. 2009; 113: 846-855, Okawa Yutaka et al, なお大川先生のご厚意で小生も共著者としてクレジットいただきました)をご参考いただきたいと思います。

最後に、今回の貴重な機会を与えてくださいました、福岡大学医学部同窓会ならびに白日高歩教授、岩崎昭憲教授、指導くださいました秀島輝先生、大川豊先生に心より御礼申し上げます。



福岡大学医学部同窓会

**在外研修援助金 募集要項**

①長期研修

対 象：正会員、準会員（本会会費完納を条件とする）で医学の研究または医療技術の習得のため、3ヶ月以上外国に留学する者

申請方法：所定の申請書により留学出発3ヶ月前までに提出のこと

提出先：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局  
T E L 092-865-6353(直通) 代表092-801-1011 内線3032  
F A X 092-865-9484

援助金：1件20万円を限度とし、年間5件以内

発表：本人に文書にて連絡

- その他：①受給者は帰国後その成果を同窓会会報に発表すること  
②研修中に生じた問題について同窓会は関与しない  
③申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードのこと

※ 準会員の方もお応募下さい。

**在外研修援助金受給者一覧**

姓名	年度	回	勤務先	地位役職	予定期間	留学先	支給額
末松保憲	26	年額	福岡大学病院 リハビリテーション部	福大助教	1510-1710	Southern California Institute for Research and Education(SCIRE)Long Beach VA Medical Center and University of California,Irvine	20万円
宮田康平	26	29	福岡大学医学部 産婦人科	福大助教	1510-1710	The Scripps Research Institute,La Jolla,CA,USA	20万円
伊藤健二	27	29	福岡大学医学部 腎臓・膠原病内科学	福大助教	1510-1709	Melbourne,Australia Monashi University,Center for Inflammatory Disease	20万円
宮部美圭	26	M4	福岡大学医学部 医学科	学生	150313-150326	スタンフォード大学春季留学	10万円

# 平成 26 年度評議員会議事録

- ◆日時 平成 27 年 4 月 25 日 16 時
- ◆場所 福岡国際ホール
- ◆出席 評議員：出席 51、委任出席 43、欠席 17  
支部長（再掲）：出席 11、欠席 8

## ◇経過報告

亡くなった先生方を悼み黙祷。

### 〈高木会長〉

皆さんお疲れ様です。今年は医師国家試験の合格率が久しぶりに 90% 台となり非常に喜んでおります。それでも 80 校の中で下の 1/4 にいます。少しでも気を抜くと低下する厳しい試験です。同窓会はしっかり応援していきたいと考えています。

子弟の入試状況ですが、今年は A 方式推薦が 3 人、地域枠推薦が 2 人、附属推薦が 1 人、センター利用が 0 人、一般入試が 10 人で合計 16 人合格でした。次のステップに繋がればと願っています。

研究奨励賞も非常に充実してきました提出される論文のクオリティーが上がっており選考に苦慮するようになってきました。在外研修援助金も学生が積極的に利用するようになりました。学生たちにも海外へ行く応援をするからと伝えています。

烏帽子会賞もタイトな学生生活の中で頑張っているようです。

## 議題 1. 平成 26 年度収入支出決算見込

### 〈事務局説明〉

[附] 会費納入状況 〔田中専務理事説明〕

同窓会も多くの事業を実施できるようになりました。その為のご浄財を皆様から会費という形で徴収させていただいております。何よりも支部の代表の方々も含めましてご尽力いただいておりますこと御礼申し上げます。ありがとうございます。

24 年度までの累積、25 年度までの累積、26 年度までの累積、26 年度単独の資料を示しております。26 年度単独では 90.6% という高い納入率をいただいております。支部徴収は 1 月末が締め切になっておりますのでこれが確定した数字となっております。日頃よりお忙しい中、支部徴収にご協力いただいております役員の先生方には、改めて

御礼申し上げます。本当にありがとうございました。本部徴収に関しましては現在のところ 52.7% です。本部徴収の締め切が 5 月末ですので例年の数字にいくのではないかと考えております。

本部、支部とも高い徴収率をいただいております。皆さんに沢山のご浄財をいただいております。改めて御礼申し上げます。  
拍手をもって承認

## ◇議題 2. 平成 26 年度事業報告及び

### 平成 27 年度事業計画（案）について

#### ①会報の発行 〈田野理事説明〉

毎年 2 回発行しております。正会員の増加により発行部数が増え増額となっております。

#### ②総会の開催 〈田野理事説明〉

総会担当学年に準備金として 20 万円渡すようにしており、総会に招待する学生会員の会費負担をしております。

#### ③支部活動援助 〈田野理事説明〉 〈林副会長説明〉

今年は 6 支部より講師招聘援助金の申請がありました。距離によって金額が違います。

### 〈重田副会長〉

学内の方向性について林教授より説明をお願いします。

### 〈林副会長〉

学内の雰囲気が大きく変わりました。数年前現学部長が立候補した時同じ医学部のある学科の主導的立場におられる方が一言「朔先生って福大卒でしょ?」と言われました。今まで言われ続けてきたことではありますが人前と言う人がおられるとはさすがに思いませんでした。もう本人もおられなくなりましたし、これは人前で言う言葉では無いという理解が共有されたと思います。

朔先生が学部長になったら次々に教授が誕生するのはと言う人もおられますが、そんなことはありませんし出来ません。えこひいきや肩入れは絶対するべきではありません。同窓の中にはそうしろと言う方もおられますが、それは母校にとって良いこととは言えません。ただ、後輩がリングなり土俵にあがって行こうとしている時にそこまで辿り付けない事例が今まであったことも事実です。私達が出来たことはそこに行く道をなるべく綺麗にしてリングにあがってもらうことです。あがって戦うのは本人です。私達は声援を送るだけです。逆に言うとそのいうことが通るようになったということです。今後の若い同窓生にはそれが当然と思って育

って欲しいと私達は願っています。

会長を初め私達が一番懸念しているのは、これを元に戻すわけにはいかないということです。今年医学部長選挙がありますが、そこまでに決して失敗をしてはいけません。何とか後の人達に繋げる道を残していかないとはいけませんと考えています。幸い現同窓会のあり方は、大学と対立するものではなく、同じ方向を向いた形で全力で努力していただいております。同窓会は普通の歴史ある大学の同窓会と同じような形にして大学や大学病院から離れない、常に同じ方向を向いて大学を助けることが重要だと考えます。そのために少しも間違いもないように多くの方々と会って話をする必要があります。ご信頼いただき今しばらくご協力いただければ本当に助かります。ご理解ご容赦いただければ誠に有り難い次第です。

④研究奨励賞〈廣瀬選考委員長の代わりとして竹下理事説明〉

研究奨励賞は18年目を迎え安定した状態で論文数も多く出ています。26年度は7論文が生まれて6名の方に賞を授与し、1名の方に奨励賞を授与いたしました。多くの研究者へ賞を出し次のステップに上がっていただきたいとの思いで選考いたしました。

⑤在外研修援助金〈竹下理事説明〉

今回医師の申請がありませんでした。但し、一人の学生からの申請があり春季に2週間スタンフォード大学へ行きました。きちんとした審査があり選考の結果合格した学生です。世界に目を向けている学生がいることは喜ばしいことです。

⑥学生対策〈安元理事説明〉

昨年の10月から医学教育推進講座という新しい講座ができ、学生教育の全般を担当することになりました。幸いに今年の卒業生はよく頑張ってくれました。卒業試験の再試を31人受けましたが、最後の第4回模試で全国の90%以下に入ったのがわずか4人でした。これはいけるのではないかとの期待を持ち、国試直前に国試激励会を開かせていただいで教職員一同応援していることを伝えました。本当によく頑張ってくれました。今後、合格率を上げていきたいと思ひますし、新卒者は100%を到達目標として考えており学生にも話しています。

在外研修援助金では4年生の学生がスタンフォード大学の春季プログラムを利用して研修に行った時に援助していただきました。全国から60名ほど応募があり38名が審査に合格しています。九州からは九大から2人、福大から1人でした。英語での面接や英語のエッセイを提出し選考

の結果選ばれ2週間行きました。海外への希望も出てきております。

学生対策にも多くの協力をいただいております。先日、学内で国家試験に合格した先輩の経験談を聞く「平成27年度ステップアッププログラム」という会を実施しました。その後M6激励会をしていただきました。こういう会は学内の教職員にとっても自分の担当する学生と直に話ができる良い機会になっております。そこで教員と学生の距離が近くなりますのでその後の指導に大変役にたっていると思っています。

M7激励会は国試浪人をした学生に行っています。昨年の年末私は、予備校に行っている学生を集めて激励会をし6名程集まってくれました。国試浪人をしていても大事な福大医学部の仲間であることを伝え続け、ちゃんと医者になってもらうようにとの思いでしております。

今年の新入生は、私達臨床医が関わって、シミュレーターを使った臨床教育を始めています。全員が学籍番号の入った聴診器を購入し音やバイタルを取らせる講義を始めております。コミュニケーションや人とコンタクトを取ることが大人になりきっておりませんので、プレゼンテーションの練習も含めて友達をリスペクトするという内容の医学概論も今年から私が担当しております。一年生から臨床に上がるまでの間に臨床医が関わられるようになったのが大きな違いかなと思っています。

⑦白衣贈与〈安元理事説明〉

4年生でOSCE、CBT試験に合格し臨床実習に上がる学生にはStudent Doctor授与式でバッチと白衣の贈与を行いました。医学部長がバッチを手渡され、その後私と同窓の八尋先生より一人一人に白衣を手渡しいたしました。

⑧国試対策費〈安元理事説明〉

国試対策も至れり尽くせりの費用を出していただいております。学生には私達教員がやる講義よりも外部講師の講義の方が人気があります。私達の講義内容とさほど変わらないように思うのですが、時期の問題で彼らがレベルアップした時に外部講師の講義があるということや、ビデオ講座は自分に向かって講義をしているという一対一感が良いのだらうと思ひます。国試当日も医学部長、教務委員の柳瀬先生、出石先生、八尋先生も含めて毎日誰かが行って激励しました。一日目の一般問題が大変難しく一日目に落ち込んだ学生がいました。二日目も三日目も「先生もうだめ～」と泣きついてくる学生達でしたが、その学生たちが合格してくれました。この三日間国試が終わるまで国試浪人をしている人達も含め一人一人に声をかけることが

出来ました。

#### ⑨支部祝儀贈与〈田野理事説明〉

支部発足、支部会参加費で23万円の予算を組んでおりますが、実績として福岡支部、北九州支部、長崎支部、佐賀支部へお渡ししております。

#### ⑩学生行事援助〈林副会長説明〉

例年通り烏帽子会賞は西医体、九山において優秀な成績を納めた団体、個人に渡しております。学生行事援助は交換留学の啓明大学への旅費負担と学生への白衣支援しております。今年少し違う点がありまして、西医体委員への援助を行いました。例年西医体委員、医学祭実行委員、九山委員からなる実行委員会が主催して新入生歓迎会が開催されておりますが、今まで使用していた会場が使用出来なくなりました。他の会場に変更すると数十万かかり、その予算が出せないことから、同窓会主催の新入生歓迎会と学生主催の新入生歓迎会を合同にすることになりました。そのため金額の増額が見込まれます。

また、西医体には大学からかなりの援助金がありますがその援助金は各愛好会の活動費として分配されますので手元には残りません。しかも西医体九山の役員は年に数回会議があり旅費等の経費が必要です。そのお金は愛好会所属の保護者からの寄付で賄っておりましたがその残高もわずかとなってしまいました。保護者に寄付の募るのでは無く同窓会の学生会員のことでですから同窓会が援助してはどうかということになり、学部長、学生部長からも正式な依頼がありましたので、1回50万円の援助をすることにいたしました。経理上の透明化を図り毎年の報告を確認しながら残高が少なくなった時に再度50万円の援助を行うとさせていただきますと考えております。変則的なこととなりますが、お認めいただきご協力いただきたいとお願いする次第です。

#### ⑪学会寄付〈林副会長説明〉

会員(正会員、特別会員、準会員)が主催される場合、日本がつくメジャーな学会には30万円、それに準ずる全国レベルには20万円、その他は10万円という傾斜配分で学会の補助をしております。非常に増えてきました。それだけ学会を主催し会長をされる同窓生が増えたということと、同窓会が寄付をしていることの情報が浸透したことによるものと考えています。学会報告を会報に必ず掲載していただいております。今後減ることはありません。こちらの充足をよろしくお願ひしたいと思っております。

#### ⑫慶弔贈与〈田野理事説明〉

26年度は5人の教授が誕生いたしまして、そのお祝いと

7名の先生方への仏生花または弔慰金を出しております。

#### ⑬グッズ作製 ⑭会員名簿〈田野理事説明〉

26年度は作製しておりませんが、⑩の会員名簿は27年度作製いたしますので予算を計上しております。

#### ⑮パニックマニュアルの発行〈北島理事に代わり田野理事説明〉

平成4年に誕生したパニックマニュアルは、今回で通算第6版目になりました。前回平成22年より『当直医パニックマニュアル』として海馬書房より出版し、これまで合計900部が全国の書店で販売されました。

今回の改版ポイントは、この5年で新しくなった各診療科のガイドラインを取り入れた点と、烏帽子会ホームページよりデジタルブックで、製本版と同様に閲覧出来るようになる点です。製本版とともに、外来や当直時など日常診療の現場でご活用いただくことを期待しております。

#### ⑯奨学金緊急貸与〈林副会長説明〉

一人の学生さんが夏以降、家庭の諸事情により生活が維持できない状況が生じました。学費は一年分支払ってありましたので夏以降の生活費等をどうするかということになりました。奨学金は4月に募集があるため該当しません。また、大学では緊急に補助できるシステムが無いため学部長、学生部長より正式な依頼が来ました。学部長の推薦が理事会へ提出されましたので検討の結果貸与することになりました。

学生さんは家のこと金銭面の不安から一時成績が下がりましたが、頑張って盛り返しきちんと卒業し医師国家試験にも合格しております。

#### ⑰縁結び〈田野理事説明〉

縁結びに関わる案内、申込書の諸経費のみで特別な活動はしていません。現在の状況としては女性8名、男性1名の登録にて行っておりますが、おめでたいお話は起こっておりません。

#### ⑱保険コンサルティング紹介〈武末理事説明〉

平成25年1月に福岡支部、北九州支部、七隈支部、筑紫病院支部の開業、勤務医の先生方には保険コンサルティングに関する案内資料をお届けしております。以前行っておりました保契約に伴う手数料収入が同窓会へ入るというシステムを復活させたものです。

今回一番の違いは、保険の斡旋のみならず弁護士登録をしてその相談ということも合わせてご案内していることです。保険の契約それに伴う手数料も入ってきてますが、弁護士登録を相談が非常に活発に行われているのが現状です。近隣の先生方以外にも平成25年4月から卒業生、6

年生、5年生、入学生に向けて保険コンサルティングに関する案内を出しました。今年度も昨年同様学生会員の保護者宛に主にご案内を出すことにしております。

保険コンサルティングの南さんよりご挨拶と弁護士登録について現状報告をしていただきます。

〈南さんより説明〉

弁護士の無料相談を一昨年(H25)の6月から登録を開始いたしました。福岡と佐賀の開業医の先生方に限定してご案内させていただき、200件になったら一旦止めて見直そうと思っておりました。秋口に200件になりましたので充実させることを中心にやっており新規募集をしておりませんでした。5月に勤務医の先生方にもご案内させていただきますのでよろしくお願いたします。

〈重田副会長〉

3年前から始めた事業ですが、ご時世を反映してか思ったより反響が多く、保険よりも忙しいようです。

以上事業計画案について説明いたしました。何かご質問はございませんでしょうか？

ないようでしたらご承認お願いたします。

拍手をもって承認

◇議題3. 平成27年度収入支出予算(案)

事務局説明

承認

◇議題4. 病診連携について

〈重田副会長〉

院内より担当になられました鍋島教授より説明お願いたします。

〈鍋島理事〉

この烏帽子会印は、同窓生と福大病院との連携を築く最初の事業となっております。この印が押してあるからと言って特別にインセンティブがあるわけではありませんが、主治医が意識することは確かだと思います。病院全体に紹介患者が増えるか、烏帽子会員からの紹介が増えるかどうか統計を取り考えて行きたいと思います。その他にも、紹介することは面倒であるという意見を良く聞きます。申し込んだら長いこと電話を待たされるなど、その辺の改善を図っているところです。福大病院は、医者向けのセミナー、患者さん医者向けのセミナー2つを開いていますがそのセミナーに福岡市内の同窓の先生方に案内を送ることをさせていただいています。今後も同窓生と病院を緊密に結びつけるような事業があればそれを行っていきたくと思っています。

〈重田副会長〉

大変な事業だと思いますので、同窓会としてバックアップできればと思っています。これを立ち上げた直後に、ハンコをどこに押すのかという質問がすぐ来ました。このことにつきましては、同窓会報に押す位置も含めて掲載しておりますのでご覧いただきたいと思います。もう一つは、筑紫地区の会員より筑紫病院へ送ってもいいのかと問い合わせがあったことです。現時点では福岡大学病院に紹介する時に使用するハンコです。筑紫病院での実施は今後の検討課題になると思います。

〈権藤福岡支部長〉

最初の目的は福岡大学病院の紹介率を何とか上げたい、その中でも卒業生からの率をも上げたいということで、同窓会は大学事業をバックアップすることになりハンコを作製しました。このメリットはあまりありませんが、このハンコが押してあると病診連携室で紹介状を扱いますので卒業生からの紹介だと解り、返事を出したかのチェックが必ず出来ます。患者さん紹介への返信の能率、確かさがアップします。病院長が必ずそうする、病診連携室もその方針であると言われました。

〈山崎評議員〉

我々の立場から言いますと先ず地元で完結することを目指します。非常に特殊な例でないで大学へ渡す機会がないというのが事実ですから大学への紹介は限られてくると思います。ハンコを使用することで卒業生からの紹介だと解ることはそれなりのメリットはあると思います。福岡済生会病院が10年位前に同じようなハンコを作って活動しています。利用したことがあります。済生会はきちんと対応してくれました。それと同じように福岡大学病院が対応してくればそれなりの意味があると思います。これからどう動くかがこの事業が成功するかにかかってくると思います。その為には入口である病診連携担当の人達は情報を得るため頑張っただけならばと考えております。大学と地元の公的病院とのスタンスが違いますので全てを大学病院へと言うわけにはいきませんが、今以上に福岡大学病院の間口が広がるのは非常に良いことだと思います。

〈林副会長〉

同窓の先生方に助けていただかないと病院も学部も保たないのは明らかです。制度上で特別なことは出来ないでしょうが、少しでもお返しできるような学内の方にアピールしていきますので何分よろしくお願いたします。

〈穴井評議員〉

同窓会の力を借りなければやっていけないとお話でし

だが、その辺りを入口である病診連携室の人ははっきり認識されているのでしょうか?病診連携室が如何にフットワークが良いかによって紹介するかどうかは違うと思います。

#### 〈鍋島理事〉

100%の理解があるかと言うと疑問です。意識改革もこれからだと思っています。

#### 〈笠理事〉

城南区で開業されている方が他にいらっしゃらないと思いますので発言させていただきます。城南区医師会でも理事をしております。連携室そのものの窓口で対応される方はとても熱心です。他の医療機関よりも優れていると思います。3年前より福岡大学病院は、城南区医師会と共催という形で「とっても健康セミナー」を城南保健所を巻き込んだ形で月に1回地域住民の希望に沿った内容のお話を、城南区医師会サイドが推薦した方を二人、学内の先生お一人が担当し、メディカルホールで開催しております。その開催が始まってから福岡大学病院の紹介率が上がったというご報告を病院長が雑誌に掲載されていたものがホームページにありました。

福岡市におりますと恵まれておまして特定機能病院が3カ所ございます。特に九大病院は国立が独立行政法人になられた時にかなり大きな意識改革があっています。福岡大学病院も努力は一生懸命されておりますが、紹介元へのサービスは努力の余地はあるかなとは思いますが。ただ進んでいることは確かです。

#### 〈林副会長〉

少なくとも現病院長はそういう認識をしておられます。病院の主な執行部もそういう認識ではあります。その認識が全てに共有されているかという点はまだそこまではいたっておりませんが、病診連携の担当の中に同窓の先生が入って来ていますので事務方、看護師、若い医者から意識を向けて行って主な潮流にしていくことが今後私達が努力すべきことだと思っています。そのためには先ず紹介が来ないことには話が進みませんのでご協力の程よろしく願いいたします。

#### 〈高木会長〉

皆さんも病診連携の登録をしている病院があると思いますが、私が登録している九州医療センターからはインフォメーションが沢山届きます。治療法、導入した機械、着任された医者の情報など事細やかな情報満載の郵便物です。病院側からいつもアプローチを受けているとプリンティングされて、何かあった時にその病院へということになります。そこが大事なんだと思います。福岡市内で開業している同

窓生へもう少し緊密に情報や連絡を送ってくれるとハンコも増えるのではないかと思います。

#### 〈重田副会長〉

今からどういう意識改革ができるかが一つのポイントだと思います。このことは進んで行くように願っておりますのでご協力よろしく願いいたします。

#### ◇議題 5. 決算評議員会省略の件 拍手をもって承認

#### ◇議題 6. 福岡大学医学部同窓会烏帽子会 第 34 回総会案内

藤見幹太先生より説明あり

原案通り承認

日 時 平成 27 年 7 月 4 日 土曜日

場 所 ソラリア西鉄ホテル

講演会を外部から考えましたが、僕らの学年の中でも面白いことしている人間がいるということで 18 回生から決めました。本村先生は最初心臓血管外科に入局して直ぐアメリカのテキサス大学に留学し人工心臓の開発に携わり、現在メイドインジャパンの人工心臓 EVA HEART を海外展開するため日本で新しく立ち上げた人工心臓の会社 EVI ジャパンという会社の代表取締役社長をされており、アメリカと日本を行ったり来たりしています。僕らの中でも変わった経歴の持ち主なので面白い話が聞けるのではないかということをお願いしております。懇親会の中でもう一人重川先生をお願いしています。本当は 2 つ上なのですが、じゅんぐりじゅんぐり美味しいものを食べて学年を降りてきたのですがかなりのグルメで、今脳神経外科速報という毎月の月刊誌にグルメのコラムを持っている程です。福大の脳神経外科に入った後愛媛に行って今は美味しい物を求めて札幌の病院で勤務しています。会費の方も同学年の協力により順調に進んでおります。是非皆様もご協力ご参加いただければと思っています。よろしく願いいたします。

#### 〈重田副会長〉

頑張って総会よろしく願いいたします。これもちまして平成 26 年度評議員会を終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。

## 学会開催報告

# 第10回病院総合診療医学会総会報告

福岡大学病院総合診療部 教授 鍋 島 茂 樹 (13 回生)

この度、第10回日本病院総合診療医学会総会の会長を拝命し、2015年2月27日、28日の2日間、ホテル日航福岡にて開催させていただきました。このような全国集会を開催する経験も力もない私にとって、烏帽子会をはじめ多くの方々のご支援とご協力を得て、学術総会開催に至ることができましたことは大変な幸せでした。病院総合診療医学会は6年前に九州大学の総合診療部を中心に創設された新しい医学会です。主として病院や診療所の総合内科で日々診療や研究を行っている方の発表の場です。

今回の学会テーマは「内科診断学の復権」としました。この半世紀の間、内科は臓器別に細分化・専門化され、それぞれ膨大な診療研究領域をかかえることとなり、1人の医師が内科全体の勉強をすることが困難になりつつあります。かつて内科学は内科診断学の歴史でもありました。来るべき「総合診療専門医」こそ、この内科の良き伝統を受け継ぎ、またそれを発展させることができる医師であると思い、このテーマを選びました。地の利もあつたと思いますが、一般演題は156題、参加者数は431人と、当学会とし

ては今までで最大の演題数と参加人数を得ることができました。特別講演には、日本専門医機構の理事長、池田康夫先生を迎えて、新しい総合診療専門医のお話しを伺いました。また、徳島大学の梶龍児先生には内科学の父 William Osler に関する講演をしていただきました。その他、NHK で活躍されたドクターGのお2人(徳田安春先生、青木眞先生)と学生・研修医に参加してもらって症例検討を開き、大いに盛り上がりました。また、シンポジウムでは、日本プライマリ・ケア連合学会理事長の丸山泉先生や若手の医師に参加してもらい、「私の目指す総合診療医」ということでディスカッションしていただきました。現在の総合診療には、いわゆる総合内科医と家庭医の2つの領域があり、それぞれ重なる部分と異なる部分があり、今後両者が話し合っより良い「総合診療医」を創り上げていく必要があることがわかりました。

烏帽子会におかれましては、第10回日本病院総合診療医学会総会に対しまして、格別のご配慮をいただき心より感謝申し上げる次第です。

## 第10回日本病院総合診療医学会 学術総会 懇親会



## 第15回日本抗加齢医学会総会 御礼と報告

福岡大学医学部 形成外科 教授 大慈弥 裕 之 (3 回生)



2015年5月29日(金)～31日(日)の3日間、福岡国際会議場にて第15回日本抗加齢医学会総会を開催いたしました。初めての九州開催となった本総会は、4,500名を超える多く

のご参加をいただき、盛会のうちに終了することができました。坪田一男理事長をはじめ役員・評議員の先生方、会員の皆様、ご参加・ご発表および学会運営にご協力いただきました関係各位に心より御礼申し上げます。

本総会から学会プログラム委員会が学術プログラムを企画することになり、伊藤裕プログラム委員長の下、領域ごとの委員が組織され、合計30のシンポジウムが企画されました。「いよいよ始まった健康食品機能表示」、「ロコモティブシンドロームと運動療法」、

「アンチエイジングの実践：医学、運動、栄養の連携」をはじめ、基礎から臨床、さらには実践にまで、幅広く魅力的なシンポジウムを実施することができました。実践面では、恒例のRun for Longevityに加えて、スロージョギングやミニレクチャー、栄養と食事に関しては、アンチエイジング弁当や博多アンチエイジング屋台村を開催いたしました。一般演題の応募数は、過去最大数である273演題となり、うち258演題を採用させていただきました。多数のご発表および座長をお務めいただいた先生方に御礼申し上げます。

会長特別企画ではDRUM TAOの公演とバイサイドプレイス博多にて懇親会を開催いたしました。懇親会開始直前に雨が止み、アンチエイジングフードと博多の味をお楽しみいただけたと思います。

この度は、福岡大学医学部同窓会の皆様の多大なるご協力を賜り、誠にありがとうございました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。



## 第 35 回九州腎臓移植研究会の開催報告

福岡大学病院泌尿器科 講師 中村 信之 (10 回生)

この度、平成 27 年 5 月 30 日(土)に福大メディカルホールにて第 35 回九州腎臓移植研究会(会長 田中正利 泌尿器科教授、参加者 121 名)を開催致しました。開催に際しましては、烏帽子会の皆様の多大なご支援を賜り有難うございました。本研究会は毎年 1 回開催され、今回で 35 回目となる歴史ある研究会です。九州沖縄全域から泌尿器科医、外科医、内科医、病理医、看護師、検査技師、薬剤師、移植コーディネータ等が参加し、腎臓移植領域の手術、免疫制御、感染症、組織適合性検査、移植腎病理、更には移植コーディネータ活動などに関して、主に臨床の現場から多面的に、また総合的に討論を行っております。今回も午前中の「HLA 組織適合性検討会」(参加者 40 名)では、福岡赤十字病院検査部の橋口裕樹先生から HLA 抗原、HLA 抗体検査、クロスマッチについての基礎的な説明、脳死/心停止下症例の症例提示、九州・沖縄地区での HLA 抗体検査の進捗状況の報告があり、本会より新たに開催した「レシピエントコーディネーターの会」には移植病院から 16 名のレシピエントコーディネータの参加があり、

各施設の活動状況等の意見交換が行われました。昼からの研究会本会では、九州沖縄ブロック献腎移植症例検討会で昨年 1 年間の九州沖縄地区での献腎症例の検討を行い、引き続き行われた「献腎移植成績向上」をテーマにしたシンポジウムでは、西日本地区における過去 12 年間の心停止後腎臓提供症例のデータの解析の発表などをもとに、有意義な議論が交わされました。また一般演題は新小倉病院の吉開俊一先生による脳外科医の立場からの移植医療啓発のご発表など 16 題の発表があり、病理検討会では福岡大学病理学の久野 敏先生、九州大学の升谷耕介によるレクチャー形式の臨床に即したご発表があるなど盛りだくさんのプログラムにより、最新の知見を得ることが出来ました。

本研究会の開催に際して、多くの方々からご指導、ご鞭撻をいただきましたことに心から感謝いたします。最後になりましたが、今後の福岡大学医学部同窓会のますますの発展を祈念いたしまして、ご報告とさせていただきます。



研究会本会では多くの質疑があり、活発な議論が交わされました。



HLA 組織適合性検討会にも多くの参加者があり、最新の情報を得ることができました。

# 福岡大学-啓明大学 BSL 交換プログラム 10 周年記念 国際シンポジウム開催報告

福岡大学医学部長・医学部心臓・血管内科学 主任教授 朔 啓二郎（1 回生）

この度、2015 年 6 月 20(土) - 21(日)日に福岡大学病院 Medical Hall において日韓国際シンポジウムを開催させて頂きました。本シンポジウム開催にあたりまして、烏帽子会には多大なる御支援を頂きました。御陰様で、盛会のうちに終了する事ができました。改めまして、会員の皆様にご心より感謝申し上げます。福岡大学医学部と韓国の啓明大学医学部との BSL 交換留学プログラム開催後 10 周年を記念し、2015 年 5 月 17 日には福岡大学医学部 6 年生 8 名が啓明大学滞在中に「International Symposium of Fukuoka University-Keimyung University」と題してまずは啓明大学医学部にて「医学教育」をテーマに両校より 2 名ずつのプレゼンテーションを行って参りました(写真 1)。

そして、今回の福岡大学の国際シンポジウムはこれを受けて、啓明大学医学部 10 名が滞在中に福岡

大学病院 Medical Hall にて国際シンポジウムを「生活習慣」をテーマに前述同様両校 2 名ずつのプレゼンテーションを行いました(写真 2、3)。

今回、両国で行われた国際シンポジウムは、医学部在籍学生が多く参加するため、両校医学部長の提案で、より深く中身のあるシンポジウムにするため韓国語-日本語の同時通訳をいれて行われました。

6 月 21 日は、日曜日午前 9 時からの開催にも関わらず啓明大学より医学部長の Kim Sangpyo 先生を始め、10 名の先生方と BSL 交換プログラム参加中の啓明大学医学部 6 年生 10 名にも参加して頂きました。また、福岡大学からも教授の先生や医学部生にも多く参加して頂きました。「生活習慣病」をテーマに筑紫病院循環器内科の浦田秀典先生、啓明大学から Lee Jung jeung 先生に御講演頂き、続いて、「禁煙」をテーマに福岡大学病院呼吸器内科の渡辺憲太郎先生、啓明大学から Kim Dae-Hyun 先生に御講演頂きました。会場からも活発な討論がなされ両国の問題点や今後の改善点など幅広い討議があり、学生も討論に参加した有意義な国際シンポジウムでありました。

最後に、本国際シンポジウムの開催に関しまして多くの方々からご指導、ご鞭撻頂き誠にありがとうございます。今後の、福岡大学医学部同窓会の益々の御発展を祈念しまして、ご報告とさせていただきます。



写真 1



写真 2



写真 3

## 第118回日本循環器学会九州地方会 H27. 6. 27日(土) 開催報告

福岡大学筑紫病院 循環器内科 教授 浦田 秀 則 (3回生)

6月27日、118回目となる日本循環器学会九州地方会を会頭としてアクロス福岡にて開催させて頂きました。数々のご支援とご協力を賜り、お陰様をもちまして、131題の演題発表とあいにくの雨の中800名を超える方々にご参加頂きました。

7会場にて最新の研究報告が行われ、合わせて行われた各セッションやセミナーでは多様なテーマについて意見が交わされました。教育セッション1では、「ヒトキマーゼ研究の歩み」と題して、私の研究者としての歩みを振り返りつつこれまでの研究成果について発表させて頂きました。教育セッション2では、「循環器疾患の予後改善に役立つサプリメントの効果」と題して、所沢ハートセンターの桜田真己先生に御講演頂きました。

今回は初の試みとして、第1回禁煙セッションも開催され、2010年(改訂)に「喫煙は病気、喫煙者は患者」というスタンスから、胎児・小児への影響も大きいとして、喫煙による健康被害全体を防止するために作成された禁煙ガイドラインについて概要が説明されました。会場には、禁煙啓発キャラクターのすわん君も登場し、毎月22日を禁煙の日としてアピールしていくことが紹介されました。

今回で4回目となる男女共同参画講演のテーマは、「これからの医療現場—いきいき女性医師の存在—理想と現実の接点を探る」で、福岡大学筑紫病院小児科の小川厚教授は、男女共同参画やワークライフバランスを実現することは、少子化対策や人材

確保の手段であるだけでなく団塊世代の大量退職を見据えた男性支援策でもであると提言されました。筑紫病院循環器内科の熊谷尚子助教は、知人女性医師へのアンケートを基に女性医師の置かれた現状と課題を問題提起し、アンケートの結果として、男女間で体力の差を感じる女性医師が多いことや、男女別の待遇を希望する比率が高いことが紹介され、そのうえで対応策としてとしての待遇案を示されました。IVF 詠田クリニックの詠田由美院長は、妊娠中の働き方について産婦人科医として独自の見解を披露し、キャリアを中断しないための働き方を試行錯誤して欲しいと話されました。

また、各臓器別の症例報告でも熱心な質疑応答がなされました。YIAセッションでは、久留米大学病院心臓・血管内科の板家直樹先生「遠隔成績虚血プレコンディショニングの心筋保護効果のメカニズムについての検討」、福岡大学心臓血管内科学の日高有香先生「経時的計測で得られた血流依存血管拡張反応(FMD)の新たな指標と件動脈疾患」、研修医セッションでは、琉球大学医学部付属病院医師キャ



リア支援センターの岩本凜々子先生「特発性亜急性滲出性収縮性心膜炎に対しステロイド投与が有効であった一例」、佐賀大学医学部附属病院の平田静香「中枢性尿崩症患者における開心術後管理に難渋し

た一例」が受賞されました。

今回、皆様のご高配とご支援により無事に地方会を終了することができました。事務局一同心より御礼申し上げる次第です。誠に有難うございました。

## 日本泌尿器科学会福岡地方会 296 回例会 開催のご報告

福岡大学医学部 泌尿器科学教室 医局長・講師 入江 慎一郎 (17 回生)

H27 年 7 月 4 日に福岡市の電気ビル共創館「みらいホール」にて、日本泌尿器科学会福岡地方会 296 回例会を開催いたしました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、会場が地下鉄 3 号線の渡辺通駅と直結している便利さもあり、参加者は 178 名とほぼ例年通りの数となりました。発表演題は 27 題で、多くは福岡県内の施設からの発表でしたが、遠くは宮崎や熊本からも発表をいただきました。九州大学や飯塚病院の臨床統計に始まり、まれな発生形態の後腹膜腫瘍や尿路腫瘍の報告、そして昨年発売の相次いだ新規前立腺癌治療薬に関する発表も目立ちました。本会では優秀演題を選定し西日本泌尿器科学会誌への投稿を推薦するという規定がありますが、この一つに福岡大学医学部 7 回生の池田 稔 先生(熊本:池田クリニック)ご発表の「5%ブドウ糖液を用いた持続灌流により溶解できた膀胱結石」が選ばれた事は大変喜ばしい結果でした。

本会終了後には第一三共製薬主催による講演会

が開催され、田中正利福岡大学教授の座長のもと、群馬大学医学研究科泌尿器科学教授の鈴木和浩先生より「前立腺癌における骨マネージメント」の演題でお話いただきました。前立腺癌はホルモン療法が奏効するがんの一つですが、長期にわたる治療の際は骨粗鬆症等の発症に留意せねばなりません。また骨転移が多いという事も特徴の一つですから、その治療開始時から終末期にわたる管理のポイントにつき、分かりやすく講演いただきました。

本会は福岡県内の 4 つの大学病院が持ち回りで年 2 回開催しており、2 年に 1 回は担当が回ってくる計算になります。しかし年々厳しくなる企業からの協力状況のなかで、地方会のような規模の小さな会は開催にあたり毎回準備に苦勞させられます。このような状況で同窓会の皆様からのご後援は大変大きな助けとなりました。この場をかりて感謝申し上げます、今後ともご支援のほど、よろしく願い申し上げます。



## 第18回 日本IVF学会報告

第18回日本IVF学会 会長

医療法人アイブイエフ詠田クリニック 院長 詠田由美 (3回生)

わが国の生殖補助医療 (ART) は、1983年の体外受精児の出生以来、急速に発展し、実施件数・技術水準において世界をリードする立場にあるといっても過言ではありません。「日本IVF学会」は、国内外におけるARTの有効性と安全性の向上を目的とした最新の知見を提供し、活発な議論のもとに生殖医療を担う者の研鑽を高めることを目的として活動を続けて参りました。今回、第18回日本IVF学会学術集会を、平成27年9月26、27日、アクロス福岡で開催させていただきました。

学術集会長として私が掲げたテーマは『ARTとNetwork』です。ARTは不妊治療の一領域として発展してきましたが、現在ではARTに生体内外ならびに生殖領域を超えたNetworkなしでは解決できない広い研究領域に及んでいます。着床に関しても胚と内膜のNetworkが存在します。医療現場では、医師・看護師・培養士・パラメディカルと密なNetworkなしでは安全な医療は追行できません。生殖医療領域を超えて、周産期領域とのNetworkの構築、さらに凍結技術の進歩により、がん生殖でのNetwork構築も今後の課題です。今回の学会では

ART領域に広がった複雑なNetworkをテーマに様々な領域の演者に最近の知見をご教授いただきました。

18年の歴史を持つ日本IVF学会ですが、今回初めて九州福岡での開催となりましたが、遠方・近隣のART研究者の方を含め、400人近くの参加者にご出席いただき、予想以上の盛会の中に、幕を閉じることができました。今回の学会開催ならびに成功裏に終了できましたのは、本学会で素晴らしいご講演を賜りました演者の先生方のお力によるものと心より感じております。また、福岡大学医学部同窓会烏帽子会様からも、過分なご援助をいただき、心置きなく学会を運営することができましたこと、心より感謝申し上げます。

ARTの歴史も間もなく40年の年月となり、不妊治療の根幹となる治療となりましたが、まだまだ進歩が止まらない領域です。これからも微力ながら、ART発展のために精進してまいります。今後とも御鞭撻、ご指導お願い申し上げます。

敬 具

平成27年10月吉日



## 第16回乳癌最新情報カンファレンス

第16回 乳癌最新情報カンファレンス当番世話人

糸島医師会病院 乳腺センター 渡邊良二(8回生)

この度、第16回乳癌最新情報カンファレンス(平成27年8月21～22日、アクロス福岡)を開催致しました。本カンファレンスの開催に際しまして、烏帽子会の皆さまには多大なるご支援賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。また、福岡では2回目の開催となりましたが、盛会のうちに終えることができましたので、ここにご報告させていただきます。

乳がんは、一生のうち12人にひとり(年間約8万1千人)罹患し、年間約1万3千人の患者さんが亡くなっていて、女性の壮年層(30～64歳)におけるがん死亡原因の第1位となっています。また、ご承知の通り乳がん診療に関する進歩はめざましいものがあります。本カンファレンスでは、乳がん診療に関して薬物療法だけではなく様々な分野の最新情報について日本を代表する一流の28人の講師陣と23人の座長やコメンテーターによる特別講演ならびにランチオン、イブニングセミナーの形式で御講演をいただきました。また、乳がん診療で大切な画像診断ならびに病理の知識も付けていただくために講習会形式やハンズオンも取り入れ、若手医師や検査技師の方にも参加しやすいカンファレンスを開催しました。

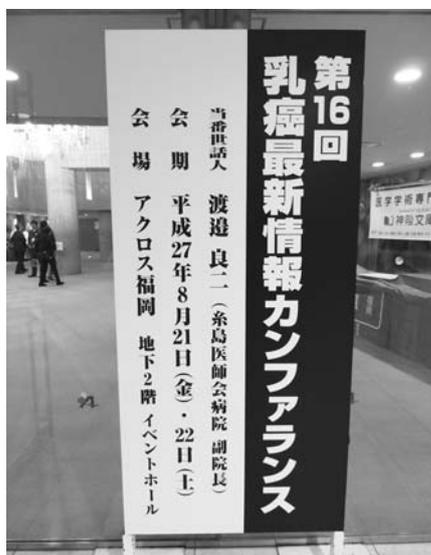
さらに、今回は乳がん診療の最前線だけではなく、最善戦をテーマに、さだまさし氏の歌で映画化された風になつライオンのモデルである柴田紘一郎先生

に特別講演「生きる力は患者さんから～『風になつライオン』の思い」をしていただきました。また、講演の中では、さだまさし氏のビデオレターによる参加者への温かい応援メッセージをいただき、盛り上がりました。また、一般演題も30演題の多数の発表があり、活発な討議が行われました。

御陰さまで、招待者を含め336名の例年を上回る参加人数があり、無事に盛会でカンファレンスを終えることができました。これも、皆様から頂きました御高配の賜物と思い、心より御礼申し上げます。当院では初めての経験にて、苦労も多々ありましたが、全国の参加された多数の先生方から、富田昌良院長(7回生、実行委員長)をはじめ糸島医師会病院のチームワークとホスピタリティの高さに感謝とお褒めの声をいただきました。カンファレンスの内容が、御参加頂きました皆様の明日からの乳がん診療のお役に立てたことを確信しこの上なき幸せに存じます。

また、懇親会も糸島の少年少女による二丈絆太鼓のアトラクションで、多くの参加者に感動を与えたようです。

本カンファレンスの開催に際しましては、多くの方々から惜しみないご指導、ご鞭撻を戴きましたこと、本誌をお借りし御礼申し上げます。最後になりましたが、ご寄付を頂いた福岡大学医学部同窓会の皆様方には心より御礼を申し上げますとともに、烏帽子会の益々のご発展をお祈り申し上げます。





## 会員寄稿

# JOS Best Paper Award を頂いて

奈良県立医科大学整形外科 臨床准教授 橋内智尚 (19回生)

私は福岡大学医学部を卒業後、奈良県立医科大学整形外科学教室に入局しました。現在は奈良市内にある西奈良中央病院で肩肘関節外科を中心に診療をしています。主に肩関節鏡手術と人工肩関節置換術に力を入れており、両者を合わせた年間の手術症例数は奈良県で一番多い病院となっています。手術中によく感じることは、同じ疾患、同じ手術でも、関節内の状態は症例毎に異なり全く同じということは無いです。なぜこのような変化(病変、障害)が生じるのか、その“原因と病態”についてよく考えさせられます。私は数多くの疑問を抱えており、その中の一つを調査した結果がAwardに繋がったので少し紹介させていただきます。整形外科以外の先生には少々分かりにくい内容かもしれませんが、少しお付き合いして頂ければ幸いです。

2015年5月20日、日本整形外科学会よりJOS

(Journal of Orthopaedic Science) Best Paper Awardを頂戴しました。論文の題は「Superficial blood flow of the superior labrum associated with rotator cuff tear using laser Doppler flowmeter」です。肩関節は肩甲骨と上腕骨、そして両者を繋ぐ多くの軟部組織から構成されています。肩甲骨関節窩の上方部分は関節唇と上腕二頭筋長頭腱より構成されており、この解剖学的部位の病変(SLAP lesion)は上腕二頭筋長頭腱の牽引力、上腕の引き下げ、peel-back mechanism、internal impingement、肩関節後方構成体の拘縮、肘関節伸展位かつ肩関節外転位での転倒により発生すると考えられており、投球動作や生体力学より提唱されたものです。しかし、投球動作や外傷の既往歴がない肩慢性疾患に合併することも少なくありません。実際、中高齢者の鏡視下腱板断裂修復術中によく認められます。上方関節

唇にかかる力学的負荷だけが原因ではなく、関節唇の内部環境に変化が起り、病的関節唇になる可能性が考えられます。私は関節唇の血流変化が病的関節唇に繋がるのではないかと考えて血流量に焦点をあてました。

生体の各運動器が正常に機能する上で、物質の輸送を通して組織の要求に見合った環境を提供するのが血液の循環です。血液は生体組織への酸素と栄養の供給を担っており、実質の組織では微小循環がこの役割を担っています。血液循環の主目的が生体内部環境の維持、すなわち全身の各組織細胞に対する生活物質の供給と代謝産物の除去にあることを考えるならば、微小循環こそまさに循環系で最も本質的な役割をする部分であり、全身の細胞の生活条件は微小循環によって直接規定されます。微小循環の障害は当該組織の機能不全を引き起こし、障害の部位と広さによっては関節の機能低下につながると思われれます。微小循環の血流動態を調べることは、

生体組織の状態を知る上で非常に重要であります。本研究では、レーザードップラー血流計で正常の関節唇とSLAP lesionの血流量を調査したところ、SLAP lesionは正常の関節唇より血流量が少ないことが分かりました。血流量の低下がSLAP lesion発生の原因となることが示唆されます。また、関節唇の血管分布を調査した報告は過去にあります。井樋栄二教授（東北大学大学院医学系研究科外科病態学講座整形外科学分野：今年の日本肩関節学会会長）から「病態解明、素晴らしいですね。」と、御褒めの言葉を頂くことができました。非常に嬉しかったです。自分のしたことが整形外科学に貢献できたのだと初めて知ることが出来ました。

私の肩関節外科は始まったばかりです。肩の痛みと機能障害の改善を目標に日々努力し、肩関節疾患に対して勇往邁進していきたい所存であります。



授賞式

第88回日本整形外科学会学術集会前日に神戸ポートピアホテルで行われた日本整形外科学会定時社員総会で、岩本幸英理事長より表彰して頂きました。



賞状と副賞

栄えある賞を頂きました。より一層、鋭意努力していききたいと思います。

## 「日本～海外、医学生～研修医交流会」と、 新レディコン改め「Doctors' Style」

正木 稔子 (26 回生) toshikomhrmt228@yahoo.co.jp

8月7日、4年生の手塚祥恵さんからお誘いを受け、東京で行われる「日本～海外、医学生～研修医交流会」に参加しました。

手塚さんはハンガリーの医学部に通う日本人学生と友達で「海外にいて日本の医療の情報を得るのは難しい」と聞いたとのこと。その友達とイベントを主催したのです。日本のドクターを招いて話をしてもらい、学生同士の交流もするという主旨。そこで日本のドクターとして講演を依頼されたのが、37回生の大野洋平先生と、26回生の私でした。

計18名が集まりました。

医学生はハンガリー、チェコから13名、福岡大学2名、順天堂大学1名。

そして、ドクター2名。

会場はカラオケの大きな一室で、ご飯を食べながらドリンクを飲みながら、プロジェクターから映し出される画面を見ながら進められていきました。

まず、ハンガリーでの医学部のカリキュラムや生活について、ハンガリーの医学生2人がプレゼン。朝8時から夜8時まで授業が詰まっていることもあるとか。とにかく座学が多くて3年生までに徹底的に叩き込まれます。1年生は9月に入学して1か月で上半身の解剖の試験まで終了しています。入学時約80名だった同級生は、卒業時には20名前後に。つまり留年は当たり前。それだけ厳しいということですね。授業や多国の学生とのコミュニケーションは英語。学校だけでなく生活面においても日本とはまるで違います。最低気温マイナス20度、最高気温マイナス5度なんていう日も。食事だって全く違うん

です。

圧倒されました。この子達はこんな過酷な環境でよく頑張ってるな。。彼らの話を聞きながら驚きばかりが溢れます。どうしてそんなに頑張れるんだろう？彼らが口をそろえて言うのは「モチベーションがすべて」。そう、「医者になりたい」んです。様々な事情があって日本の医学部に入れなかった彼ら。道が閉ざされているのなら海外で医師免許を取って、日本に帰ってきてもう一度日本の医師国家試験を受け直し、ダブルライセンスで「日本で」医療をしたい、その一心なんです。

次に大野先生の講演でした。岡山大学でどのような研修をしているか、2年間の研修の枠の中から東京の病院での研修の時間をもらい、その経験についてお話しされました。また周囲の先生方から学ぶ医師としての姿勢についても。

最後に私が講演させていただきました。学生時代から医師13年目現在に至る経緯、医局システム(日本独自です)についての解説、医師として大切にしていること、具体的に目標を持つことの大切さについて話しました。

それぞれの講演終了後、輪になって質疑応答。これから海外で1年生を迎える学生もいたため、既に海外で頑張っている先輩に生活のアドバイスを求めたり、海外で頑張れる秘訣を聞いたり、学校について質問したり。ドクターに対しては問診の仕方でも気を付けていることや、医師としてどんな時が嬉しいのか聞

いていました。

「家庭を大切にしたいけど仕事も頑張りたい、何科に進むのがいいでしょう?」という男子からの質問も飛び出しました。彼らが仕事を始め家庭も持つのは10年後くらいかもしれません。しかし、将来を見据え、何を大切にしたいのかをちゃんと持っているからの質問。ビジョンの明確さに感嘆しました。まずは知識・技術をきちんと習得した上で、その後働き方はいかようにでも変えられるからやりたい科を選べばいい。科ではなく働き方の問題。優先順位を間違えないようにと説明したところ、心の重荷が降り勉強に集中できると安心してくれました。

質問は絶えることがなく、二次会へ流れ込み終電まで時間を惜しんで語り合いました。(写真1)

後日、参加者の学生から個人的にアクセスが多く、彼らのハングリー精神に圧倒されています。日本の外科技術は、世界で三本の指に入るほど優秀なんですって。調べてみると、外科系学会社会保険員会連合は、結腸癌や食道癌などの手術成績は海外に比べ死亡率が低いと紹介しています。皆さん知ってま

した?海外では有名なんですって。その日本に彼らは帰ってきたい。私たち日本人医師が自分達の技術をもっと高く評価していいんだなと思いました。

海外の子たちのために、地元でもない東京でイベントを開催し、わざわざ福岡から出て来た手塚さんには本当に頭が下がります。また、志高い彼らの前で講演させてもらうことは大変恐縮でしたが、講演したドクターが二人とも福大卒で、海外の学生たちが良い影響を受け満足して帰ってくれたことが嬉しく、大野先生はこのためにわざわざ短い夏休みを合わせ岡山から東京にまで来ていました。大野先生、手塚さん…福大の後輩たちをととてもとても誇らしく、また頼もしく思いました。

海外で学んできた医学生たちは、厳しい難関を突破してEUの医師免許を取得して戻ってきます。日本で再度医師国家試験を受けるので、道のりは長い。その彼らの長い道りを支えるのは「医師になりたい」という熱い思い、それだけです。

彼らは英語も堪能で意欲もあり、将来的には海外で学会発表しやすく、EUでも医療のできる、日本



(写真1) (下段左) 正木、(正木の右斜め上) 大野洋平先生、(下段右から2番目) 手塚祥恵さん

医療にとって大きな戦力になることでしょう。

夢を描いて日本に帰ってきた彼らが、日本の医療の現状を見て「こんなはずじゃなかった」と思うことがないようにしたい。私自身、襟元を正され自分を鼓舞する良い機会となりました。

話は変わって、9月26日に Doctors' Style というイベントを福岡で開催しましたのでご報告いたします。

2014年秋号に寄稿させていただきました「新レディアイコン」がリニューアルしました!以前は女医と女子学生の交流でしたが、男子学生からの要望があり、今回から男性医師と男子学生にも参加してもらい、更に広い視野で医師という仕事について知る機会となりました。

医学生15名(学年は1-5年生、熊本大学からも1名)。ドクターは9名で広島、山口、東京、福岡からOBOGが集結。ただただ、後輩を思うから集まった卒業生。部活を越え、年齢を越え、科を越え、フランクに進路について話し合える場となりました。

ゲストドクターは、17回生の横山裕先生、25回生の竹田(旧姓新井)春華先生でした。

お二人の学生時代から科の決定、医師になってから。プライベートについても根掘り葉掘り私がインタビューで聞き出し、笑いあり真剣な話あり。学生時代の合コンの話が飛び出したり、仕事や大学院・留学の話も。



その後は、集まった先輩方が、後輩たちのテーブルに行き、話を聞いて助言。

二次会に半分以上の参加者が残り、三次会は2時でお店が閉まってしまい移動。結局四次会、朝5時まで6名で話していました。それでも話は尽きないのです。

学生たちからは、

「お医者さんと話ができて、いろいろ聞けて嬉しかった!」

「先生方がフレンドリーで話しやすかった!」

「自分の将来を真剣に考えるきっかけになった。」

「先輩方が遠方から来て下さって、愛されてるなって思った!」

「研究や院について、将来的に視野に入れたくなった。」

「なんでこんな会をやってくれるのか、意味がわからないくらい良い会だった。」

と感想をもらいました。

卒業生からも、

「後輩のために何かしてあげたいけど、何をしたらいいのかわからなかったから開催してくれてありがとう。また来たいと思います。」

「後輩と話す機会を設けてもらって嬉しかった。」

「後輩たちが真剣に話を聞いてくれてこちらが恐縮するほど。」

「他科の先輩と話せてよかった。」

「他部活の先輩と久しぶりに会えて嬉しかった。」

「いろんな働き方があるんやね、知らなかった!」

卒業生にとっても意義のある会になったようでうれしい限りです。

ゲストのお二人とは何度となくメール交換をして、内容を詰めていきました。横山先生は当日長崎での仕事の後滑り込みで到着。竹田先生はわざわざ広島からお子さんを預けて来ていただきました。

他の卒業生は、メールとFacebookの案内だけで

来て下さった方々。後輩への温かい思いを感じました。

開催に尽力してくれたのは、4年生の野中裕文君、関千尋さん、手塚祥恵さん。マニュアルのないイベント開催の準備は、地味でとても骨の折れる作業です。それでも強い熱意で走り回ってくれた彼らには感謝が尽きません。

また、3月に会った時にはとても大人しく見えていた1年生が2年生になり、この日は希望の科のドクターに食い付き大変熱心に質問を投げかけていた姿はすごく印象的でした。将来やりたいことが明確になってから、行動が変わったそうです。

将来を具体的に思い描くことで、目標達成への手順が見えてきます。そして行動は自然と変わります。後輩達に医師になる意欲を向上してもらうため、先輩としてできることはほんの小さなさやかなことですが、何かができることを心から嬉しく思います。また先輩として、後輩に恥ずかしくないようにありたいと思うようになりました。

今後も続けていきますので、ご協力いただける卒業生からのご連絡をお待ちしています!

学生の皆さんもお誘い合わせの上、次回もご参加くださいね!



## 学生対策報告

# 平成 27 年度 烏帽子会主催 福岡大学医学部 M4 年生激励会を終えて

福岡大学医学部 病理学講座 教授 竹 下 盛 重 (3 回生)

2015 年 9 月 4 日 (金曜日)、天神ホテルモントルーにて M4 年生 94 名、M4 主副担任 2 名、M5 年生 10 名、烏帽子会員 14 名とともに M4 激励会を行いました。今回は M4 年生の出席が 90 名を超えました。M5 年生 10 名にも来ていただき、出席者は有意義であったと思います。また、2、3 次会も各自であり、楽しい時間であったと思います。

会は、初めに本 7 回生であり平成 26 年 10 月より福岡大学医学部医学教育推進講座教授安元佐和先生より「The road less traveled」というタイトルで講演をいただきました。安元先生は卒業後小児科に入局し講師、准教授となり一貫して小児科を牽引してまいりました。先生は豊富な臨床力とアイデアで 1 年生から 6 年生までの教育の流れを再考し、高学年生が低学年生を指導する方式を少しずつ福大で取り入れております。また、M6 年生の 3 名が 7 月に行われた全国医学生シムリンピック (医療面接や手技等を競う会) で見事総合 3 位に入ったことを紹介しました。人間は自分の目的を持って日々努力すれば確実に到達するという強い気持ちを持つことを強調されておりました。福大生にやる気を起こさせる内容で感動いたしました。

その後は、七隈祭医学部委員長である吉村郁弘君が司会進行役となり、懇親会が行われました。そ

の中で高木忠博会長のご挨拶、林英之眼科学教授の乾杯のご挨拶、副担任、OB の皆様、重田正義副会長等よりアドバイスを頂きました。国家試験 100 名 100% を目指すこと、国家試験合格率を上げるのはみなさんであること、チームワークの重要性、M5 で student doctor になる自覚、十分に勉強し M5、6 を充実させること、大学を卒業してからも盛り上げてほしいことという内容であったと思います。また、西医体でバスケットボール女子が優勝した (2 連勝) といううれしい話が出てきました。頼もしい学生がいます。しかしながら、全体的にはクラブは低迷しております。私個人としては、寂しい気がしております。よく遊び、よく勉強することが大学生の大切な所です。最後は全員で校歌斉唱を行い、終わりとなりました。

M4 年生は 94 名の出席ですが、朔先生が学部長になられていることや M5 年生 Student Doctor 称号授与式は大きい効果であると思います。また、昨年同様 M5 年生が 10 人来て頂けるのが M4 年生には良い機会かなと思います。このシステムを壊さないようにして、学生主体を趣旨としまとまりがある会になっていけば良いなと思います。来年は、講演会の司会から学生にして頂こうと思います。

また、散会后、事故がないように各自気をつけていただきたいと思います。



医学祭実行委員のみなさん



医学祭実行委員長 吉村郁弘さん

## M4 激励会

吉 村 郁 弘 (M4)

こんにちは。今年度 M4 激励会の司会を務めました、吉村郁弘(よしむらふみひろ)です。今年度の激励会は9月4日、大名にありますホテルモントレラスール福岡にて催されました。

初めに、新講座であります福岡大学医学部医学教育推進講座に、昨年10月に就任された安元佐和先生から「The Road Less Traveled」というテーマで、お話と私たちに向けてお言葉をいただきました。どの段階でどの程度の達成度があれば、私たちがCBT合格から医師国家試験合格まで、スムーズに迎えることができるかを、過去のデータから具体的な数値やグラフ等を用いた貴重なアドバイスは、私たちM4一同、身の引き締まる思いで聞かせていただきました。

また、烏帽子会会長の高木先生をはじめ、朔医学部長や多くの烏帽子会会員の先生方から激励のメッセージをいただきました。そのお言葉からは、烏帽子会会員の先生方が、福岡大学医学部のことや私たち学生のことを、本当によく気にかけてくださっていることが感じられました。私達も母校を大切に、偉大な先生方に続かなければならないと感じました。先生方のお言葉を胸に、まずはM5のStudent Doctorになれるよう、CBTやOSCEに備えたいと思います。

最後になりますが、激励会開催におきましてご尽力いただきました烏帽子会の諸先生方、学生側と連絡を取っていただいた竹下先生に感謝の意をこめ、学生を代表して御礼申し上げます。ありがとうございました。



9月4日／ホテルモントレラスール福岡にて

# 新入生歓迎会

福岡大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学 教授 岩崎 昭 憲 (5回生)

今年度の新入生歓迎会は、第一部として西医体委員、医学祭実行委員、九山委員からなる実行委員会が主催の歓迎会、第二部として同窓会主催の歓迎会を開催しました。

第一部を担当した学生は、時間配分、スケジュール管理、第一部会場より第二部会場への誘導手順を全て考え実行し、第二部への同窓会へとのバトンタッチを成功させました。

第二部は新入生に在學生 40 名クラス担任教員 15 名理事監事 16 名を加え、総勢 180 名による祝宴

となりました。

初めに、田中伸之介理事によるスライドを使つての同窓会についての説明があり、新入生も在學生も真剣に話を聞き入っていました。その後担任、教員の先生方より歓迎の言葉をいただき、OB・OGの言葉、恒例のTシャツ贈与(通称烏帽子と言われているらしい)と続き、最後は全員Tシャツ着用で校歌斉唱となりました。

これからの6年間有意義な学生生活を送って欲しいと強く願っています。



### 烏帽子会の主な事業

- |         |             |
|---------|-------------|
| ①会報の発行  | ⑭学生行事援助     |
| ②総会の開催  | ⑮学会寄付       |
| ③支部活動援助 | ⑯慶弔贈与       |
| ④研究奨励賞  | ⑰グッズ作製      |
| ⑤在外研修援助 | ⑱会員名簿発行     |
| ⑥学生対策   | ⑲A・Cマガジン発行  |
| ⑦白衣贈与   | ⑳奨学金貸与      |
| ⑧国試対策   | ㉑縁結び        |
| ⑨支部総会援助 | ㉒保険コンサルティング |



同窓会とは……?

人として、医師として  
「先輩を敬い、後輩を導く」

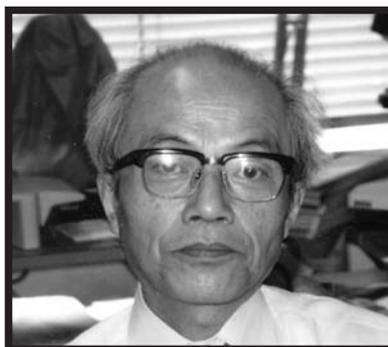


## 訃 報

特別会員	木 船 悌 嗣 先生	平成 27 年 9 月 10 日	ご逝去 (寄生虫学)
正 会 員	榎 林 教 先生	平成 26 年 8 月 11 日	ご逝去 (10 回生)
正 会 員	青 野 猛 先生	平成 27 年	ご逝去 (8 回生)
正 会 員	久 保 直 文 先生	平成 27 年 5 月 12 日	ご逝去 (14 回生)
正 会 員	森 田 稔 先生	平成 27 年 7 月 6 日	ご逝去 (6 回生)
正 会 員	吉 本 雅 彦 先生	平成 27 年 8 月 3 日	ご逝去 (8 回生)
正 会 員	船 越 邦 子 先生	平成 27 年 11 月 8 日	ご逝去 (2 回生)

## 木船先生、さようなら。

福岡大学医学部 眼科学教室 教授 林 英 之 (1 回生)



先生、さようなら。

ご葬儀にもうかがえず、かえりみれば失礼ばかりしてきました。また機会があればお会いしたいものです。どこかにおられるなら待っていて下さい。私もおっつけ参ります。

思えば不思議な御縁でした。久留米大学附設高校で、殆ど誰も出席しない生物の授業に出て窓の外ばかり眺めている劣等生を目ざとく見つけて覚えてくださった非常勤講師が先生でした。まさか、その生徒が文系希望から転じて創立直後の医学部に入学し、先生がその医学部の寄生虫学教室に職を得られて大学で再会するとは、お互いに考えも及ばぬ事でした。私は先生のお顔すら忘れていました。ながらく欠席を続けていた附設高校出身者の会で先生から初めてそれを教えられ、赤面の限りでした。林先生と声をかけるべきだろうが、どうも林君と言いたくなる、昔のよしみで勘弁してくれないかとおっしゃいました。

もちろんです。私も木船教授とはお呼びしたくありませんでしたから。

口はばったいことですが、医学教育と研究は速度と量を増し、先生と生徒との、ゆったりとした関係を維持できなくなりつつあるような気がします。そのなかにあつて、先生は最後まで教師としての心の構えを崩さずに過ごされました。まことに頭の下がることです。先生に申し上げたことがあります。碩学が亡くなると、一生をかけられた知識は書物に残ったとしても、いま存在する疑問に対して助言を得る機会が失われてしまうのが残念だと言う思いが前よりも強くなりました。また自分も、わずかながら蓄えてきた知識や経験があるが、それを誰にも残さずに終えるのはつらいと感じるようになりましたと。先生のお答えはこうでした。それは君が良い教師になったということだよ。

そのお言葉を信じて今しばらく働き続けます。さようなら。

キャンパスだより

《烏帽子会賞受賞者一覧》

愛好会名	受賞者	受賞対象
バスケットボール部	団体表彰	第66回西日本医科学生総合体育大会 女子バスケットボール愛好会優勝
アーチェリー部	吉田圭希	第七回西日本医科学生アーチェリー競技大会 男子総合準優勝
剣道愛好会	中山敦貴	平成27年度第54回九州山口医科学生体育大会 個人準優勝
弓道愛好会	添田李子	平成27年度第54回九州山口医科学生体育大会 個人優勝
バスケットボール部	団体表彰	第67回西日本医科学生総合体育大会 女子バスケットボール愛好会優勝
藤野貴久・後藤和貴・高橋信敬		Medical Simulation Olympic 2015 (略称; シムリンピック 2015) 総合3位

シムリンピック体験談

藤野 貴久 (M6)

初めまして、福岡大学医学部医学科6年生の藤野貴久と申します。この度、2015年7月26日に新潟にて開催された、シムリンピック2015に出場させて頂きましたので、御報告させて頂きます。シムリンピックとは日本医学教育学会が主催する、臨床実習での成果を3人1チームで競い合うイベントです。内容は4年生が受験するOSCEをAdvanceな内容にしたもので、臨床推論も含まれます。

我々は6年生の藤野貴久、後藤和貴、高橋信敬(表紙カラー写真左より)という3名で、福岡大学とし

て初めて参加させて頂きました。結果は3位で銅メダルという身に余る賞を頂くことが出来ました。

この大会に出場したことは、臨床技能の学習になったことはのみならず、他大学の医学生と交流し繋がりを持つことが出来たこと、その医学生たちにとっても良い刺激をもらい、ますます頑張ろうという気持ちになれたことが我々にとって1番の収穫であったと考えています。

ぜひ、後輩の皆にも積極的に参加してほしいと思います。もちろん、6年生のみならず5年生の段階からでも出場可能なので、BSLで培った力を思う存分発揮できるまたとないチャンスです。

長くなってしまいましたが、この度はシムリンピックに出場する機会を与えてくださった医学教育推進講座の安元教授、八尋先生を始め、支えてくださった多くの先生方に感謝申し上げたいと存じます。誠にありがとうございました。そして後輩の皆さんも、将来の自分の患者様のために勉強頑張ってください。私達6年生も国家試験を全員合格できるよう、一致団結して頑張りたいと思います。



## 烏帽子会賞を受賞して

剣道愛好会 中山 敦 貴 (M5)

今回このような賞をいただき本当にありがとうございます。私は第54回九州・山口医科学生体育大会において、個人戦準優勝することができました。

今回の成績は個人戦の結果ですが、応援してくれた剣道部のチームメイト、友達とみんなで勝ち取った勝利だと思います。剣道は、1対1の形式で試合を行う個人競技であり、勝敗は一瞬で決まってしまう、試合時間は4分と短いため逆転は難しいなどの特徴があります。そのため、試合に勝つには精神力や集中力がとても大切になります。しかし、今回の大会では、5年生と学年が上がったことや結果を出さなければいけない、と自分に変なプレッシャーをかけてしまい、1回戦2回戦は思うように体が動かずヒヤヒヤする場面がたくさんありました。そんな時、チームメイトや友達からの声援を感じたり、勝利を祈願してくれた

お守りを見ていると、自然と自信がみなぎり緊張がほぐれ、自分の力を発揮することができました。剣道はコートの中では一人で戦いますが、それはたまたまその一人が試合をしているというだけであり、試合に出ている人も応援している人もチームが一丸となって戦うことが大切だと改めて感じました。今回あと一歩のところまで優勝を逃したことは本当に残念です。が、私の座右の銘である「文武両道」を貫き、学生の本分である勉強はもちろん剣道も続け来年の大会は優勝をめざし、将来振り返った時に充実した学生生活だったと思えるような日々を過ごしたいと思っています。

最後になりましたがいつも応援して下さる顧問の先生、OBOGの先生、先輩方にこの場をお借りして改めてお礼申し上げます。ありがとうございます。今後も剣道愛好会をよろしく願います。



## 九山結果報告

弓道愛好会 添 田 李 子 (M4)

烏帽子会会報に原稿を書く機会をいただいたので九山結果報告等をさせていただきます。

この度、私は九州山口医科学生体育大会弓道部門の女子個人戦で優勝することが出来ました。

弓道の試合結果は的中数ばかりに目がいき、的にあたる事が全てと思われがちですが、弓道の本質は正しい射法を行い、美しい射形を心がける事にあります。的へのあたりはずれはその結果であり、的中数にこだわるあまり本質を忘れてはならないのです。

私自身、道場の先生方、先輩方からご指導していただく中、分かっているけどどうしても的にあてたいという気持ちが勝ってしまったり、なかなか直らない悪い

癖に悩まされたり、もどかしい時期も多々ありましたが、同時に弓道の奥深さを楽しいと感じるようになっていきました。入部してからの三年半はあっという間で、気付けば引退前の最後の九山を迎えていました。自分が納得できるような正しく美しい射形で弓道をするという目標を完全に達成することが出来なかったのは心残りですが、九山を経て後輩たちに目標に向かって試行錯誤しながら地道に努力し続ければ思わぬ時に力になるという事を示せたのなら幸いです。

最後にこれまでご指導くださった先生方、応援して下さった先輩方、支えてくれた同僚や後輩の皆さん、本当に感謝しております。ありがとうございました。





## 福岡大学医学部同窓会 烏帽子会賞褒賞基準

- (目的) 福岡大学医学部同窓会 (以下烏帽子会という) は、その所属する学生会員が対外試合または活動において優勝し或いは優秀な成績を取った場合、その団体または個人に対し、その栄誉を讃え賞状、賞金または賞品を授与してこれを表彰する。
- (賞の名称) この賞を烏帽子会賞という。
- (対象試合等) 表彰の対象となる試合または活動とは、概ね西日本医科学生総合体育大会、九州 山口医科学生体育大会を含むその規模以上のものを云い、内容は単に体育関係のみならず学術、芸術等多岐に亘るものとする。
- (申告書の提出) 烏帽子会は烏帽子会が表彰に値すると認めた団体または個人、或いは自ら表彰を希望する団体または個人に対し、烏帽子会賞申告書及び賞状の写しを提出させる。
- (表彰の審査) 表彰の審査及び賞金額の決定は理事会において行う。  
賞金または賞品の支給基準額は別表の通りとする。
- (表彰) 表彰は総会、理事会等の席上で行い賞金を授与し会報に掲載する。  
付則 1、この基準は平成 18 年 4 月 1 日から施行する。  
2、この改正基準は平成 22 年 1 月 15 日から施行する。

別表) 烏帽子会賞の基準

		西医体：A		全医体：B		九山：B		その他：C	
団 体	優 勝	A-1	50,000円	B-1	30,000円	B-1	30,000円	C	その都度判定
	準優 勝	A-2	40,000円	B-2	20,000円	B-2	20,000円		その都度判定
	3 位	A-3	30,000円						
	4 位	A-4	20,000円						
個 人	優 勝	A-3	30,000円	B-2	20,000円	B-2	20,000円	C	その都度判定
	準優 勝	A-2	20,000円	B-1	10,000円	B-1	10,000円		その都度判定
	3 位	A-1	10,000円						

※但し烏帽子会賞は同一大会に1個とし、上位の成績を表彰する。参加チーム数の少ない場合は理事会にて減額することができる。  
5年連続受賞においては殿堂入りと賞する。

# 福岡大学医学部同窓会諸表

## 平成 26 年度収入支出決算

区分	科 目	26 予算 :A	26 決算 :B	26 決算予算比較	決 算 内 訳
収 入	繰 越 金	11,884,619	11,884,619	0	
	会 費 収 入	28,447,000	29,055,025	▲ 608,025	入会費：4,769,250 学年会費：5,032,390 年会費：19,105,955 準年会費：147,430
	手 数 料 収 入	360,000	285,678	74,322	契約件数 10 人
	協 賛 金 収 入	0	0	0	
	雑 収 入	50,000	317,052	▲ 267,052	グッズ売上ほか
	預 り 金 収 入	40,000	55,230	▲ 15,230	
	積 立 金 繰 入	0		0	
	仮 受 金	0		0	
	合 計	40,781,619	41,597,604	▲ 815,985	
支 出	給 与	3,330,000	3,234,040	95,960	パート 2 名
	旅 費	2,100,000	2,948,630	▲ 848,630	役員旅費：592,630 評議員会：640,680 私大連絡会：688,520 その他：1,026,800
	事 務 用 品 費	400,000	357,649	42,351	
	印 刷 費	2,867,000	2,139,894	727,106	会報：1,968,390 封筒：138,780 その他：32,724
	通 信 運 搬 費	1,750,000	1,406,520	343,480	電信電話：97,453 会報：753,150 切手葉書：379,363 その他：441,831
	設 備 工 事 費	240,000	216,000	24,000	維持契約
	什 器 備 品 費	240,000	28,080	211,920	内線用電話機
	事 業 費	19,630,000	16,933,348	2,696,652	総会費：577,122 研究奨励賞：1,519,248 在外研究援助金：300,000 学生対策：3,623,131 国試対策費：920,618 学生行事援助費：951,007 支部活動費：32,561,408 支部祝儀：150,000 M5 白衣贈与：893,016 慶弔費：2,181,478 学会寄付：2,400,000 縁結び支援費：133,920 保険コンサルティング：32,400
	会 議 費	2,000,000	1,464,347	535,653	理事会、会長懇話会：561,940 評議員会：500,953 各種会議他：401,451
	公 租 公 課	70,000	71,000	▲ 1,000	福岡県民税：21,000 福岡市民税：50,000
	雑 費	3,031,500	2,192,787	838,713	税理士報酬：32,400 渉外費：118,800 業務用グッズ：273,285 病診連携関連：823,300 その他：940,002
	預 り 金 支 出	40,000	54,700	▲ 14,700	給与源泉徴収税
	引 当 金 積 立	2,000,000	0	2,000,000	
	協 賛 金 支 出	0	0	0	
借 入 金 返 却	0	0	0		
予 備 費	3,083,119	0	3,083,119		
	合 計	40,781,619	31,046,995	9,734,624	
	収 支 差 引	0	10,550,609	▲ 10,550,609	

## 平成 26 年度残金処分

残金額（収支差引額）	10,550,609 円
奨学金積立金積立	0 円
刊行物積立金積立	0 円
事業積立金積立	0 円
次年度繰越	10,550,609 円

## 平成 26 年度特別会計決算

	事業積立金	医学教育研究基金	刊行物積立金	合 計
前年度より繰越	86,484,205	11,981,375	9,039,863	107,505,443
本年度増加額	2,195,000	1,270,000	2,000,000	5,465,000
本年度受取利息	4,794			4,794
本年度減少額		▲ 1,227,160	▲ 2,652,684	▲ 3,879,844
本年度未決算額	88,683,999	12,024,215	8,387,179	109,095,393

## 平成 26 年度事業報告と平成 27 年度事業計画

項目	年度		平成 27 年度 事業計画	
	平成 26 年度 事業計画 予算 (A)	平成 26 年度 事業報告 実績 (B)	平成 27 年度 事業計画 予算 (C)	C - A
① 会報の発行	3,333,200	2,721,540	3,443,000	109,800
② 総会の開催	400,000	577,122	400,000	0
③ 支部活動援助	1,900,000	3,251,408	1,900,000	0
④ 研究奨励賞	1,600,000	1,519,248	1,600,000	0
⑤ 在外研究援助	2,000,000	300,000	2,000,000	0
⑥ 学生対策	3,400,000	3,623,131	4,100,000	700,000
⑦ 白衣贈与	1,000,000	893,016	1,100,000	100,000
⑧ 国試対策費	2,000,000	920,618	2,000,000	0
⑨ 支部祝儀贈与	230,000	150,000	230,000	0
⑩ 学生行事援助	800,000	951,007	800,000	0
⑪ 学会寄付	2,000,000	2,400,000	2,000,000	0
⑫ 慶弔贈与	300,000	2,181,478	300,000	0
⑬ グッズ作製	0	0	0	0
⑭ 会員名簿発行	0	0	5,000,000	5,000,000
⑮ バニックマニュアル発行	5,000,000	2,652,684	0	▲ 5,000,000
⑯ 奨学金貸与	0	1,225,000	0	0
⑰ 縁結び	1,000,000	133,920	1,000,000	0
⑱ 保険コンサルティング	30,000	32,400	30,000	0
合計	24,993,200	23,532,572	25,903,000	909,800

## 平成 27 年度収入支出予算

区分	科目	26 予算	27 予算	27 年度予算摘要	27 予算-26 予算
収入	繰越金	11,884,619	10,550,609		▲ 1,334,010
	会費収入	28,447,000	29,106,000	入会費:5,189,000 学年会費:4,441,000 年会費:19,345,000 準年会費:131,000	659,000
	手数料収入	360,000	200,000	保険コンサルティング紹介手数料	▲ 160,000
	協賛金収入				0
	雑収入	50,000	50,000	グッズ売上ほか	0
	預り金収入	40,000	40,000	給与源泉徴収税	0
	積立金繰入				0
	仮受金				0
合計	40,781,619	39,946,609		▲ 835,010	
支出	給与	3,330,000	3,330,000	パート2名	0
	旅費	2,100,000	2,100,000	役員旅費:600,000 評議員会:500,000 私大連絡会:500,000 その他:500,000	0
	事務用品費	400,000	400,000		0
	印刷費	2,867,000	2,936,000	会報:2,576,000 封筒:200,000 その他:160,000	69,000
	通信運搬費	1,750,000	1,817,000	電信電話:100,000 会報:867,000 切手葉書:600,000 その他:250,000	67,000
	設備工事費	240,000	240,000	維持契約162,000 その他:78,000	0
	什器備品費	240,000	240,000		0
	事業費	19,630,000	19,460,000	総会費:400,000 研究奨励賞:1,600,000 在外研究援助金:2,000,000 学生対策:4,100,000 国試対策費:2,000,000 学生行事援助費:800,000 支部活動費:1,900,000 支部祝儀:230,000 M5 白衣贈与:1,100,000 慶弔費:300,000 学会寄付:2,000,000 縁結び支援費:1,000,000 保険コンサルティング:30,000 事業予備費:3,000,000	▲ 170,000
	会議費	2,000,000	2,000,000	理事会、会長懇話会:700,000 評議員会:500,000 各種委員会:300,000 その他:500,000	0
	公租公課	70,000	71,000	福岡市県民税	1,000
	雑費	3,031,500	3,032,400	税理士報酬:32,400 渉外費:1,000,000 寄付金:1,000,000 その他:1,000,000	900
	預り金支出	40,000	40,000	給与源泉徴収税	0
	引当金積立	2,000,000	2,000,000		0
	協賛金支出				0
借入金返却				0	
予備費	3,083,119	2,280,209		▲ 802,910	
合計	40,781,619	39,946,609		▲ 835,010	
収支差引	0	0		0	

医局長・医長名簿 (○内の数字は福大医学部卒業回)

(平成27年10月現在)

	医 局 長	病棟医長	外 来 医 長
<b>[ 福 大 病 院 ]</b>			
腫瘍・血液・感染症内科	戸 川 温	猪 狩 洋 介 ⑳	後 藤 敏 孝
内 分 泌 ・ 糖 尿 病 内 科	田 邊 真紀人	村 瀬 邦 崇	元 永 綾 子 ㉑
循 環 器 内 科	三 浦 伸一郎 ⑪	栗 野 孝 志 ㉕	森 井 誠 士 ㉖
消 化 器 内 科	阿 南 章 ⑱	石 橋 英 樹 ㉓	横 山 圭 二 ㉒
呼 吸 器 内 科	石 井 寛	白 石 素 公 ⑪	廣 田 貴 子
腎 臓 ・ 膠 原 病 内 科	安 部 泰 弘 ㉑	植 木 尚 子	安 野 哲 彦 ㉔
血液浄化療法センター		笹 富 佳 江 ⑬	
神 經 内 科 ・ 健 康 管 理 科	合 馬 慎 二 ㉓	津 川 潤	深 江 治 郎
精 神 神 經 科	吉 良 健太郎 ㉔	衛 藤 暢 明	黒 岩 健 輔 ㉓
々 (デイケア)			片 岡 岳
小 児 科	井 手 口 博 ⑲	吉 兼 由 佳 子 ⑲	井 手 康 二 ㉒
消 化 器 外 科	橋 本 竜 哉 ㉑	愛 洲 尚 哉	谷 村 修
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	吉 田 康 浩 ㉔	濱 武 大 輔 ㉒	平 塚 昌 文 ⑬
整 形 外 科	前 山 彰 ㉕	木 山 貴 彦 ㉔	信 藤 真 理 ㉔
形 成 外 科	川 上 善 久	大 山 拓 人 ㉖	木 村 広 美
脳 神 經 外 科	野 中 将 ⑯	大 川 将 和	左 村 和 弘
心 臓 血 管 外 科	和 田 秀 一 ⑬	助 弘 雄 太	峰 松 紀 年
皮 膚 科	伊 藤 宏 太 郎 ㉖	大 賀 保 範	伊 原 穂 乃 香 ㉓
泌 尿 器 科	入 江 慎 一 郎 ⑰	宮 島 茂 郎 ㉒	古 屋 隆 三 郎 ㉓
産 婦 人 科	城 田 京 子	荒 木 陵 多 ㉓ (産科) 阿 南 春 分 ㉔ (婦人科)	近 藤 晴 彦
眼 科	梅 田 尚 靖 ⑱	外 尾 恒 一 ㉔	有 田 直 子 ⑮
耳 鼻 咽 喉 科	上 野 哲 子 ㉔	福 崎 勉 ㉒	樋 口 仁 美
放 射 線 科	光 藤 利 通 ㉒	赤 井 智 春 ㉑	野々熊 真 也 ㉔
麻 酔 科	重 松 研 二 ㉑	平 田 和 彦 ⑫	平 田 和 彦 ⑫
歯 科 口 腔 外 科	瀬 戸 美 夏	喜 多 涼 介	大 谷 泰 志
病 理 部	溝 口 幹 朗 ⑥		
臨 床 検 査 部	松 本 直 通 ⑭		
輸 血 部	熊 川 みどり		
救 命 救 急 セ ン タ ー	西 田 武 司 ㉓	大 田 大 樹 ㉖	
総合周産期母子医療センター		太 田 栄 治 ⑲ (新生児部門) 廣 瀬 龍 一 郎 (3階南病棟)	
総 合 診 療 部	武 岡 宏 明 ㉕	堀 端 謙	武 岡 宏 明 ㉕
東 洋 医 学 診 療 部	久 保 田 正 樹 ⑭		
薬 剤 部			
臨 床 研 究 支 援 セ ン タ ー			
卒 後 臨 床 研 修 セ ン タ ー			
<b>[ 筑 紫 病 院 ]</b>			
筑紫病院(総医局長)	宮 崎 浩 行 (呼吸器内科)		
循 環 器 内 科	光 武 良 晃 ㉕	岡 村 圭 祐 ㉔	熊 谷 尚 子 ㉖
内 分 泌 ・ 糖 尿 病 内 科	工 藤 忠 睦 ㉓	阿 部 一 朗	小 林 邦 久
呼 吸 器 内 科	宮 崎 浩 行	赤 木 隆 紀 ㉑	児 玉 多 ㉑
消化器内科・内視鏡部	※光 安 智 子	二 宮 風 夫 ㉖	石 原 裕 士 ㉑
小 児 科	橋 本 淳 一 ⑲	山 崎 靖 人 ㉖	鶴 澤 礼 実
外 科	平 野 公 一 ㉑	平 野 由 紀 子 ㉓	三 宅 徹 ㉓
整 形 外 科	秋 吉 祐 一 郎	櫻 井 真 ㉑	黒 田 大 輔
脳 神 經 外 科	新 居 浩 平 ㉔	伊 香 稔	坂 本 王 哉 ㉓
泌 尿 器 科	平 浩 志 ⑮	平 浩 志 ⑮	宮 嶋 哲 匡 ⑲
眼 科	佐 々 由 季 生	佐 々 由 季 生	佐 々 由 季 生
耳 鼻 い ん こ う 科	市 川 大 輔 ㉕	市 川 大 輔 ㉕	坂 田 俊 文 ⑩
放 射 線 科	山 本 良 太 郎 ㉑		
救 急 科	松 尾 邦 浩 ⑧		
麻 酔 科	生 野 慎 二 郎 ⑧		
病 理 部	原 岡 誠 司		

(筑紫病院の※印は、循環器内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科の代表医長)

## 教育職員人事（講師以上）

（○内の数字は福大医学部卒業回）[平成 27.4.2～27.10.1]

区分	所属	資格	氏名	発令日	摘要
退職	救命救急センター	講師	村井映 <sup>⑰</sup>	27.5.1	
	消化器外科	准教授	乗富智明	27.9.30	
	救命救急センター	講師	平野玄竜 <sup>⑳</sup>	27.9.30	
	救命救急センター	講師	重森裕 <sup>㉑</sup>	27.9.30	
採用	筑紫循環器内科	准教授	白井和之 <sup>⑧</sup>	27.10.1	
昇格	筑紫消化器科	教授	植木敏晴 <sup>⑧</sup>	27.10.1	
	腫瘍・血液・感染症内科学	准教授	石塚賢治	27.10.1	
	生理学	講師	本田啓	27.10.1	
	消化器内科	講師	横山圭二 <sup>㉒</sup>	27.10.1	
	救命救急センター	講師	仲村佳彦 <sup>㉓</sup>	27.10.1	
	総合診療部	講師	堀端謙	27.10.1	
	病理学	講師	溝口幹朗 <sup>⑥</sup>	27.10.1	
	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	講師	榎本康子	27.10.1	
	筑紫救急科	講師	岡村圭祐 <sup>㉔</sup>	27.10.1	
	筑紫脳神経外科	講師	新居浩平 <sup>㉔</sup>	27.10.1	

### 事務局からのご連絡

原稿募集!!

名簿調査を進めていると気になる先生方のご趣味。

トライアスロン! SALSA! バンド演奏! 乗り鉄! 化石収集! 音楽! 映画! 城! その他沢山!!  
興味をそそられるものばかりです。

ご多忙の中どのように楽しんであるのでしょうか? 遠くまでお出かけになることある  
のでしょうか? ととても知りたいです。

会報へ掲載お願いします。原稿お待ちしております。

## 編 集 後 記

2015年秋号の烏帽子会会報をお届けします。朔 啓二郎教授が医学部長に再任され、新たに大慈弥裕之教授が医療担当の福岡大学副学長に就任されました。また、2015年の春の鍋島茂樹先生（13回生）の総合診療部教授就任に続き、10月より筑紫病院消化器内科教授に植木敏晴先生（8回生）が就任されました。会報にもありますように、医学部学生の活躍、烏帽子会会員の多くの優秀な論文の発表や学会主催が顕著に増えてきており、今後ますます医療、学生教育が充実し発展していくものと期待がさらに膨みます。

会報作成にあたり、関係部署の方々にご協力いただき誠にありがとうございました。会報も充実した内容でお届けしたいと考えております。今後も皆様のご支援とご協力よろしく願います。

文責 岩隈 昭夫（8回生 広報担当）



# 第35回 福岡大学 医学祭を終えて

本年度10月31日～11月2日に行われました第35回福岡大学医学祭についてご報告致します。この度は、福岡大学の役に立てればと考えていたところ、委員長という貴重な体験をさせて頂ける運びとなりました。前委員長の標さんから、今年の2月にバトンを受けました医学祭は、運営面、動員数共に完成形まで仕上げられた状態でした。そこで、福岡大学の医学祭をもっと良いものにしたと、実行委員そして烏帽子会の先生方との度重なる会議を行い、多くの改革を行いました。時代に沿った対外広告として、既存のパンフレットの内容や広告協賛の『ホームページ及びSNS』への大幅移行。医学に興味のある中高生をターゲットに、本年度医学祭のテーマである禁煙啓発及び本学医学部のPR活動を兼ねた『1日医学生体験』。

講演会には学内外からテーマに精通した著名な先生を招き、講演会合間には、よりテーマに親しみを持ってもらえるよう、禁煙啓発のゆるキャラである『すわん君』と一緒に禁煙体操を行い、医学祭オリジナルの禁煙啓発動画の上映を行いました。その他にも様々な部分を改善し、その結果、今年度の医学祭は、おそらく過去最高の協賛数、コスト削減、そして集客数を達成する事が出来ました。医学祭実行委員会という組織として、このような成功を収めたという経験は、この学年の一つの財産となったのではないかと思います。最後になりましたが、大変お忙しい中、ご指導、ご協力を賜りました、朔医学部長をはじめ、医学祭監査の岩崎先生、笠先生、烏帽子会理事会ならびに会員の先生方、医学部事務課、学生課の方々、運営にあたって協賛を頂いた皆様、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。これを以て、私たちの活動は終了し、来年度の実行委員にバトンを繋ぎますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。これで本年度医学祭のご報告を終わります。

第35回福岡大学医学部医学祭実行委員会  
委員長 吉村 郁弘



HPアドレス  
<http://fukuokadaigaku-igakusai.jimdo.com>

## 福岡大学医学部同窓会 第35回 烏帽子会総会

開催日 平成28年7月2日(土) 5:00PM～9:00PM  
会場 ソラリア西鉄ホテル

### 烏帽子会会報第59号

発行日 平成27年12月1日  
発行人 高木 忠博  
編集人 小玉 正太

発行所 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1  
福岡大学医学部同窓会  
電話:092-865-6353(直通)  
092-801-1011(代表) 内線[3032]  
FAX:092-865-9484  
E-mail: eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

印刷所 ロータリー印刷(株)  
福岡市中央区長浜2-1-30  
電話:092-711-7741  
FAX:092-711-7901